

横浜市アレルギー疾患に係る医療機関調査 報告書

令和8年3月
横浜市医療局

目次

I. 医療機関調査概要	3
1. 調査目的	3
2. 調査概要	3
3. 調査結果を見る上での注意事項	3
II. 医療機関調査結果	7
1. 施設基礎情報・アレルギー疾患診療実施状況	7
2. 医療機関連携について	19
3. アレルギー診療に関する課題や期待について	30
III. 参考資料	38
1. 医療機関調査票	38
2. 単純集計結果	47

I 医療機関調査概要

I. 医療機関調査概要

1. 調査目的

「アレルギー疾患対策基本法」及び「アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針」に基づき、横浜市における総合的なアレルギー疾患対策を進めるために、「アレルギー疾患対策基本法」における対象疾患である「気管支ぜん息」、「アトピー性皮膚炎」、「アレルギー性鼻炎」、「アレルギー性結膜炎」、「花粉症」、「食物アレルギー」を中心に、横浜市の現況を把握し、施策を検討するための実態調査を、医療機関に対して実施した。

2. 調査概要

- (1) 対象医療機関：横浜市内に所在するアレルギー疾患に関連する診療科※を標榜する病院の診療科及び診療所
- ※内科（呼吸器科、呼吸器内科を含む）、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科（耳鼻科を含む）、眼科、アレルギー科
 - ※ 1つの病院で複数の対象診療科がある場合は、診療科ごとに回答

- (2) 調査方法
依頼文を郵送配布、横浜市電子申請・届出システムより回答

- (3) 調査期間
令和7年5月16日（金）～ 6月13日（金）

- (4) 回収状況

配布数	3,058 件
回答数	765 件
回収率	25.0%

3. 調査結果を見る上での注意事項

- ・グラフ、表中の「n」はアンケートの有効回収数を示している。
- ・比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、合計が 100.0%にならない場合もある。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が 100.0%を超える場合がある。
- ・自由記述の回答は、表現方法などを統一するために原文を一部修正して記載している。
- ・クロス集計表において、青色のデータバー（最小値 0・最大値 100）で割合の結果を示している。

Ⅱ 医療機関調査結果

II. 医療機関調査結果

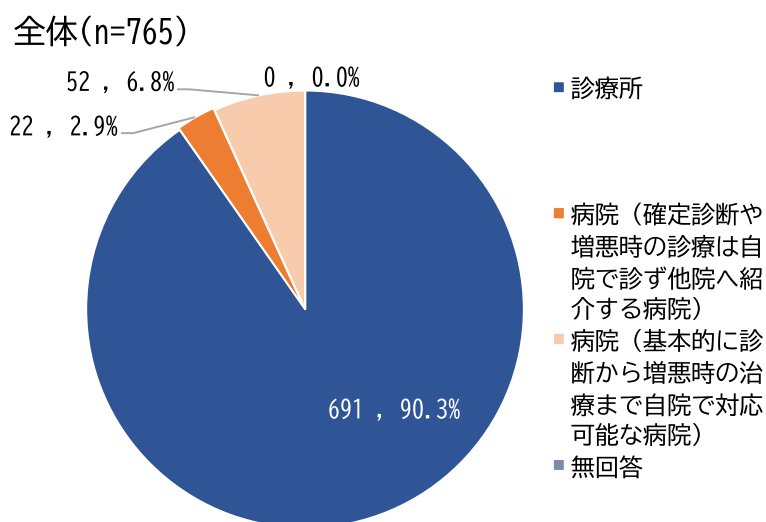
1. 施設基礎情報・アレルギー疾患診療実施状況

① 施設種類

問3. 施設の種類について、ご回答ください。(一つを選択)【必須回答】

回答した施設の種類について、「診療所」は90.3%、「病院（確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院）」は2.9%、「病院（基本的に診断から増悪時の治療まで自院で対応可能な病院）」は6.8%であった。

【図1】施設種類



【表1】施設種別・診療領域別 施設種類

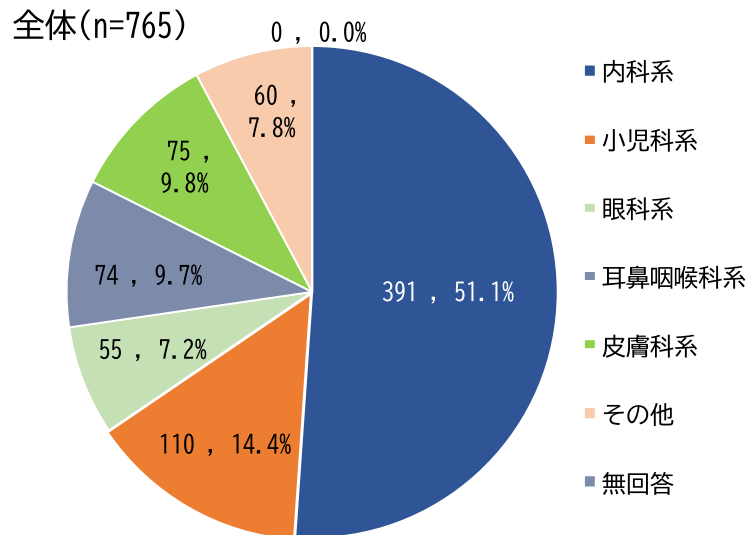
		回答数	診療所	病院（確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院）	病院（基本的に診断から増悪時の治療まで自院で対応可能な病院）	無回答
全体		765	90.3	2.9	6.8	0.0
施設種別	診療所	691	100.0	0.0	0.0	0.0
	病院	74	0.0	29.7	70.3	0.0
診療領域別	内科系	391	92.3	3.6	4.1	0.0
	小児科系	110	84.5	2.7	12.7	0.0
	眼科系	55	90.9	1.8	7.3	0.0
	耳鼻咽喉科系	74	86.5	1.4	12.2	0.0
	皮膚科系	75	86.7	1.3	12.0	0.0
	その他	60	96.7	3.3	0.0	0.0

② 主たる診療領域

問4. 主たる診療領域をご回答ください。(一つを選択)【必須回答】

主たる診療領域について、「内科系」は 51.1%、「小児科系」は 14.4%、「眼科系」は 7.2%、「耳鼻咽喉科系」は 9.7%、「皮膚科系」は 9.8%、「その他」は 7.8%であった。

【図 2】 主たる診療領域



③ 専門医・アレルギー関連スタッフの所属状況

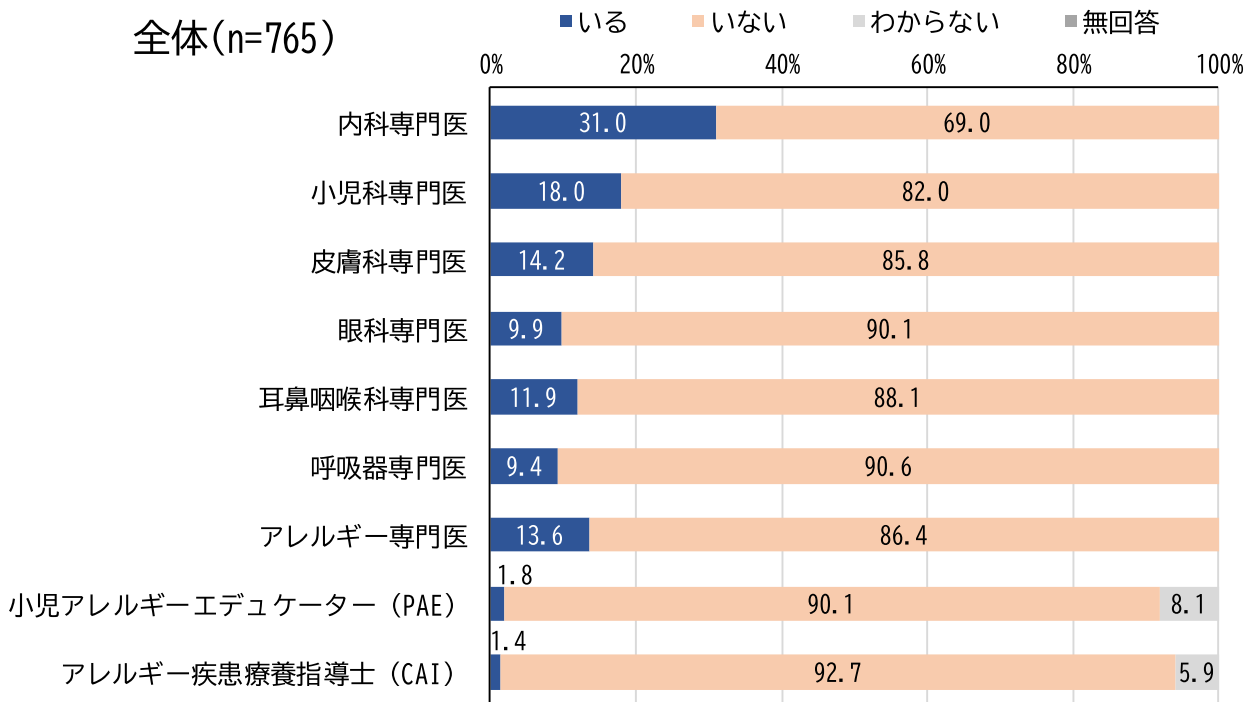
問5. 専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご回答ください。(一つを選択)【必須回答】※病院の場合は、専門医については所属する診療科の状況についてご回答ください。小児アレルギーエデュケーター (PAE)とアレルギー疾患療養指導士 (CAI) については院内の状況についてご回答ください。

専門医の所属割合は、「内科専門医」が 31.0%で最も高く、「呼吸器専門医」が 9.4%で最も低かった。

また、「小児アレルギーエデュケーター (PAE)」の所属割合は 1.8%、「アレルギー疾患療養指導士 (CAI)」の所属割合は 1.4%であった。

施設種別にみると、『病院』は『診療所』よりも「小児アレルギーエデュケーター (PAE)」 「アレルギー疾患療養指導士 (CAI)」が所属している割合が高くなっている。

【図 3】 専門医・アレルギー関連スタッフの所属状況



【表2】施設種別・診療領域別 専門医・アレルギー関連スタッフの所属状況

			回答数	いる	いない	わからない	無回答
内科専門 医	施設 種別	診療所	691	27.6	72.4		0.0
		病院	74	62.2	37.8		0.0
	診療 領域 別	内科系	391	52.2	47.8		0.0
		小児科系	110	9.1	90.9		0.0
		眼科系	55	7.3	92.7		0.0
		耳鼻咽喉科系	74	8.1	91.9		0.0
		皮膚科系	75	8.0	92.0		0.0
その他	60	11.7	88.3		0.0		
小児科專 門医	施設 種別	診療所	691	15.6	84.4		0.0
		病院	74	40.5	59.5		0.0
	診療 領域 別	内科系	391	4.9	95.1		0.0
		小児科系	110	94.5	5.5		0.0
		眼科系	55	3.6	96.4		0.0
		耳鼻咽喉科系	74	8.1	91.9		0.0
		皮膚科系	75	2.7	97.3		0.0
その他	60	8.3	91.7		0.0		
皮膚科專 門医	施設 種別	診療所	691	11.1	88.9		0.0
		病院	74	43.2	56.8		0.0
	診療 領域 別	内科系	391	5.9	94.1		0.0
		小児科系	110	8.2	91.8		0.0
		眼科系	55	7.3	92.7		0.0
		耳鼻咽喉科系	74	6.8	93.2		0.0
		皮膚科系	75	88.0	12.0		0.0
その他	60	3.3	96.7		0.0		
眼科専門 医	施設 種別	診療所	691	7.5	92.5		0.0
		病院	74	32.4	67.6		0.0
	診療 領域 別	内科系	391	2.3	97.7		0.0
		小児科系	110	6.4	93.6		0.0
		眼科系	55	92.7	7.3		0.0
		耳鼻咽喉科系	74	8.1	91.9		0.0
		皮膚科系	75	1.3	98.7		0.0
その他	60	3.3	96.7		0.0		
耳鼻咽喉 科専門医	施設 種別	診療所	691	9.4	90.6		0.0
		病院	74	35.1	64.9		0.0
	診療 領域 別	内科系	391	2.6	97.4		0.0
		小児科系	110	8.2	91.8		0.0
		眼科系	55	1.8	98.2		0.0
		耳鼻咽喉科系	74	93.2	6.8		0.0
		皮膚科系	75	1.3	98.7		0.0
その他	60	1.7	98.3		0.0		
呼吸器專 門医	施設 種別	診療所	691	5.2	94.8		0.0
		病院	74	48.6	51.4		0.0
	診療 領域 別	内科系	391	13.0	87.0		0.0
		小児科系	110	7.3	92.7		0.0
		眼科系	55	5.5	94.5		0.0
		耳鼻咽喉科系	74	9.5	90.5		0.0
		皮膚科系	75	1.3	98.7		0.0
その他	60	3.3	96.7		0.0		
アレル ギー専門 医	施設 種別	診療所	691	9.6	90.4		0.0
		病院	74	51.4	48.6		0.0
	診療 領域 別	内科系	391	9.2	90.8		0.0
		小児科系	110	33.6	66.4		0.0
		眼科系	55	5.5	94.5		0.0
		耳鼻咽喉科系	74	14.9	85.1		0.0
		皮膚科系	75	18.7	81.3		0.0
その他	60	5.0	95.0		0.0		
小児アレ ルギーエ デュケー ター (PAE)	施設 種別	診療所	691	0.7	93.8	5.5	0.0
		病院	74	12.2	55.4	32.4	0.0
	診療 領域 別	内科系	391	0.8	92.1	7.2	0.0
		小児科系	110	9.1	86.4	4.5	0.0
		眼科系	55	0.0	92.7	7.3	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	0.0	85.1	14.9	0.0
		皮膚科系	75	1.3	89.3	9.3	0.0
その他	60	0.0	88.3	11.7	0.0		
アレル ギー疾患 療養指導 士 (CAI)	施設 種別	診療所	691	0.6	96.4	3.0	0.0
		病院	74	9.5	58.1	32.4	0.0
	診療 領域 別	内科系	391	1.0	94.6	4.3	0.0
		小児科系	110	5.5	91.8	2.7	0.0
		眼科系	55	0.0	94.5	5.5	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	0.0	86.5	13.5	0.0
		皮膚科系	75	0.0	90.7	9.3	0.0
その他	60	1.7	90.0	8.3	0.0		

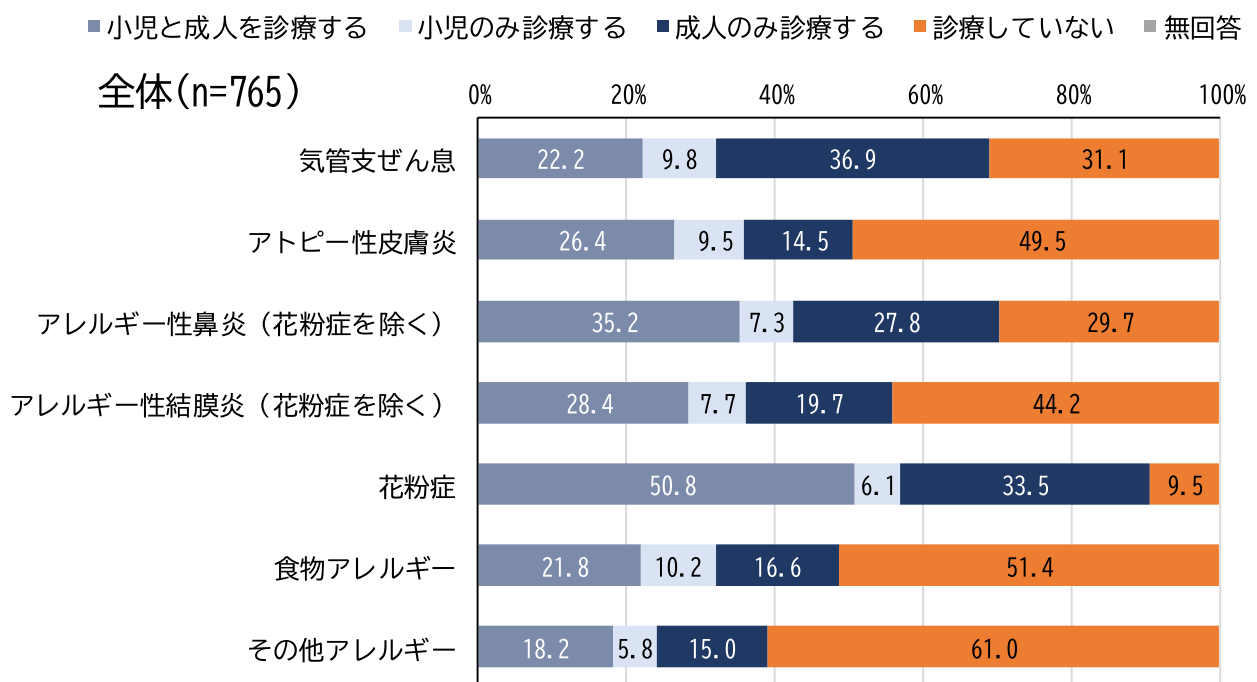
④ 「診療」を行っているアレルギー疾患

問6. 令和7年5月時点において、「診療」を行っている疾患についてご回答ください。(一つを選択)【必須回答】

診療を行っているアレルギー疾患に関して、「診療していない」の割合は、「花粉症」が9.5%で最も低く、「食物アレルギー」が51.4%で最も高かった（「その他アレルギー」を除く）。

診療領域別にみると、「花粉症」は全ての診療領域で診療が行われていた。また、「食物アレルギー」に関して、『小児科系』では「診療していない」が3.6%であり、診療を行っている割合が高かった。一方、『内科系』では「診療していない」割合が52.2%と高かった。

【図4】「診療」を行っているアレルギー疾患



【表3】施設種別・診療領域別 「診療」を行っているアレルギー疾患

			回答数	小児と成人を診療する	小児のみ診療する	成人のみ診療する	診療していない	無回答
気管支ぜん息	施設種別	診療所	691	21.9	9.1	37.6	31.4	0.0
		病院	74	25.7	16.2	29.7	28.4	0.0
	診療領域別	内科系	391	27.4	0.3	64.5	7.9	0.0
		小児科系	110	33.6	66.4	0.0	0.0	0.0
		眼科系	55	9.1	0.0	1.8	89.1	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	23.0	0.0	9.5	67.6	0.0
		皮膚科系	75	4.0	1.3	6.7	88.0	0.0
		その他	60	1.7	0.0	28.3	70.0	0.0
アトピー性皮膚炎	施設種別	診療所	691	25.3	9.0	14.6	51.1	0.0
		病院	74	36.5	14.9	13.5	35.1	0.0
	診療領域別	内科系	391	19.9	0.5	25.6	54.0	0.0
		小児科系	110	32.7	64.5	0.0	2.7	0.0
		眼科系	55	7.3	0.0	0.0	92.7	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	10.8	0.0	4.1	85.1	0.0
		皮膚科系	75	93.3	0.0	5.3	1.3	0.0
		その他	60	10.0	0.0	6.7	83.3	0.0
アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	691	35.3	6.4	29.1	29.2	0.0
		病院	74	33.8	16.2	16.2	33.8	0.0
	診療領域別	内科系	391	30.7	0.0	49.6	19.7	0.0
		小児科系	110	44.5	50.9	0.0	4.5	0.0
		眼科系	55	14.5	0.0	3.6	81.8	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	98.6	0.0	0.0	1.4	0.0
		皮膚科系	75	17.3	0.0	8.0	74.7	0.0
		その他	60	10.0	0.0	18.3	71.7	0.0
アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	691	28.4	6.8	20.7	44.1	0.0
		病院	74	28.4	16.2	10.8	44.6	0.0
	診療領域別	内科系	391	20.7	0.0	35.0	44.2	0.0
		小児科系	110	39.1	53.6	0.0	7.3	0.0
		眼科系	55	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	29.7	0.0	2.7	67.6	0.0
		皮膚科系	75	16.0	0.0	4.0	80.0	0.0
		その他	60	6.7	0.0	15.0	78.3	0.0
花粉症	施設種別	診療所	691	52.0	5.1	34.3	8.7	0.0
		病院	74	40.5	16.2	25.7	17.6	0.0
	診療領域別	内科系	391	38.1	0.0	56.5	5.4	0.0
		小児科系	110	56.4	42.7	0.0	0.9	0.0
		眼科系	55	89.1	0.0	0.0	10.9	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	98.6	0.0	1.4	0.0	0.0
		皮膚科系	75	64.0	0.0	8.0	28.0	0.0
		その他	60	13.3	0.0	46.7	40.0	0.0
食物アレルギー	施設種別	診療所	691	21.4	9.7	16.9	52.0	0.0
		病院	74	25.7	14.9	13.5	45.9	0.0
	診療領域別	内科系	391	19.4	0.8	27.6	52.2	0.0
		小児科系	110	29.1	67.3	0.0	3.6	0.0
		眼科系	55	5.5	0.0	0.0	94.5	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	18.9	0.0	2.7	78.4	0.0
		皮膚科系	75	53.3	0.0	12.0	34.7	0.0
		その他	60	3.3	1.7	13.3	81.7	0.0
その他アレルギー	施設種別	診療所	691	17.1	4.9	15.3	62.7	0.0
		病院	74	28.4	13.5	12.2	45.9	0.0
	診療領域別	内科系	391	13.8	0.0	26.9	59.3	0.0
		小児科系	110	21.8	40.0	0.0	38.2	0.0
		眼科系	55	10.9	0.0	0.0	89.1	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	20.3	0.0	1.4	78.4	0.0
		皮膚科系	75	50.7	0.0	8.0	41.3	0.0
		その他	60	3.3	0.0	5.0	91.7	0.0

⑤ 「診断」を行っているアレルギー疾患

【問6で診療可能と回答した疾患のみ回答】

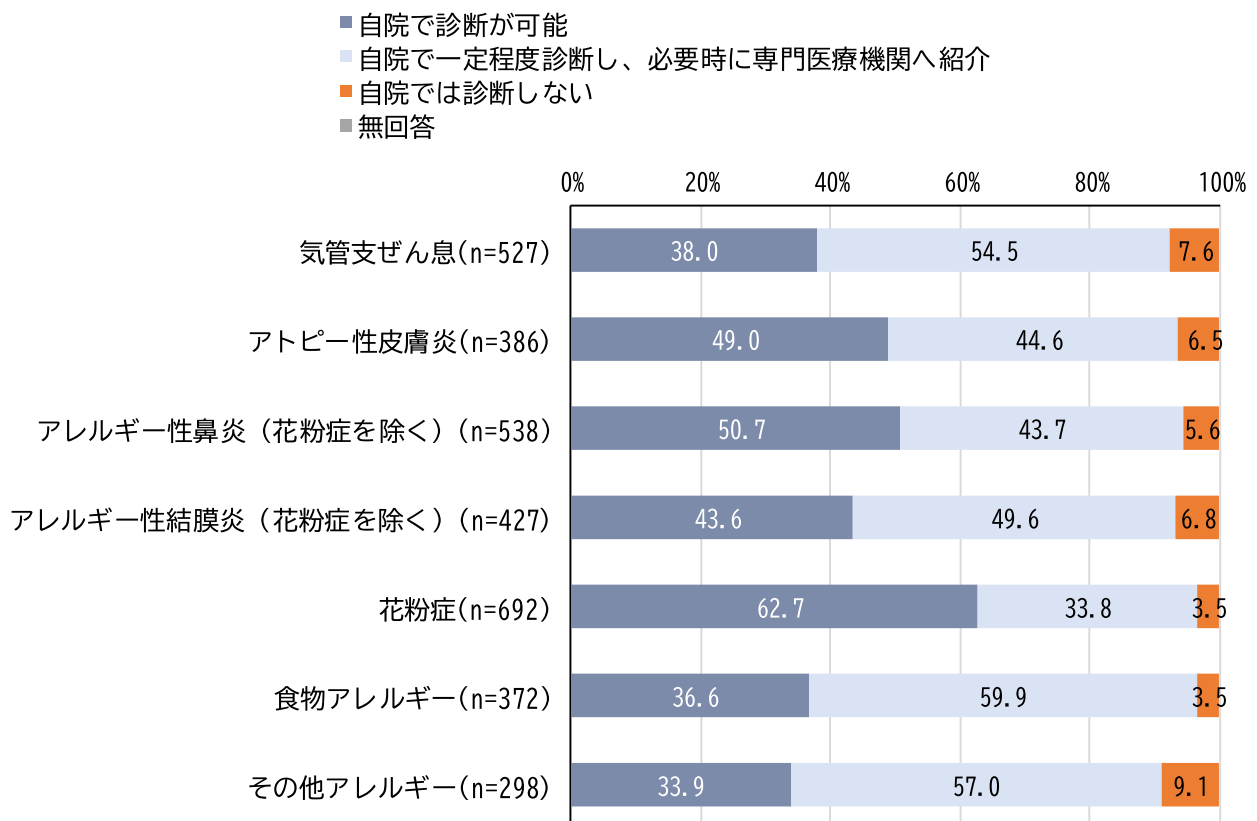
問7. 令和7年5月時点において、「診断」を行っている疾患についてご回答ください。(一つを選択)【必須回答】

診断を行っているアレルギー疾患に関して、「自院で診断が可能」の割合は「花粉症」が62.7%で最も高く、「食物アレルギー」が36.6%で最も低かった（「その他アレルギー」を除く）。

また、「自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介」の割合は「食物アレルギー」が59.9%で最も高く、「花粉症」が33.8%で最も低かった。

施設種別でみると、「自院で診断が可能」の割合について、「花粉症」の病院・診療所の差は12.2ポイントであったのに対し、「気管支ぜん息」の差は45.9ポイントと大きかった。

【図5】「診断」を行っているアレルギー疾患



【表 4】施設種別・診療領域別 「診断」を行っているアレルギー疾患

			回答数	自院で診断が可能	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	自院では診断しない	無回答
気管支ぜん息	施設種別	診療所	474	33.3	58.4	8.2	0.0
		病院	53	79.2	18.9	1.9	0.0
	診療領域別	内科系	360	31.7	61.4	6.9	0.0
		小児科系	110	64.5	33.6	1.8	0.0
		眼科系	6	66.7	0.0	33.3	0.0
		耳鼻咽喉科系	24	33.3	45.8	20.8	0.0
		皮膚科系	9	11.1	66.7	22.2	0.0
		その他	18	11.1	66.7	22.2	0.0
アトピー性皮膚炎	施設種別	診療所	338	45.0	48.2	6.8	0.0
		病院	48	77.1	18.8	4.2	0.0
	診療領域別	内科系	180	26.1	61.7	12.2	0.0
		小児科系	107	64.5	34.6	0.9	0.0
		眼科系	4	75.0	25.0	0.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	11	36.4	54.5	9.1	0.0
		皮膚科系	74	86.5	13.5	0.0	0.0
		その他	10	20.0	70.0	10.0	0.0
アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	489	48.5	45.6	5.9	0.0
		病院	49	73.5	24.5	2.0	0.0
	診療領域別	内科系	314	37.6	54.5	8.0	0.0
		小児科系	105	70.5	29.5	0.0	0.0
		眼科系	10	50.0	50.0	0.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	73	90.4	8.2	1.4	0.0
		皮膚科系	19	36.8	52.6	10.5	0.0
		その他	17	17.6	70.6	11.8	0.0
アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	386	40.2	52.8	7.0	0.0
		病院	41	75.6	19.5	4.9	0.0
	診療領域別	内科系	218	31.2	57.8	11.0	0.0
		小児科系	102	54.9	45.1	0.0	0.0
		眼科系	55	80.0	20.0	0.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	24	54.2	37.5	8.3	0.0
		皮膚科系	15	26.7	60.0	13.3	0.0
		その他	13	7.7	84.6	7.7	0.0
花粉症	施設種別	診療所	631	61.6	34.9	3.5	0.0
		病院	61	73.8	23.0	3.3	0.0
	診療領域別	内科系	370	58.6	38.4	3.0	0.0
		小児科系	109	75.2	24.8	0.0	0.0
		眼科系	49	55.1	32.7	12.2	0.0
		耳鼻咽喉科系	74	94.6	4.1	1.4	0.0
		皮膚科系	54	51.9	46.3	1.9	0.0
		その他	36	27.8	58.3	13.9	0.0
食物アレルギー	施設種別	診療所	332	33.1	63.3	3.6	0.0
		病院	40	65.0	32.5	2.5	0.0
	診療領域別	内科系	187	31.0	64.2	4.8	0.0
		小児科系	106	49.1	49.1	1.9	0.0
		眼科系	3	66.7	0.0	33.3	0.0
		耳鼻咽喉科系	16	37.5	62.5	0.0	0.0
		皮膚科系	49	34.7	65.3	0.0	0.0
		その他	11	9.1	81.8	9.1	0.0
その他アレルギー	施設種別	診療所	258	28.3	62.4	9.3	0.0
		病院	40	70.0	22.5	7.5	0.0
	診療領域別	内科系	159	22.0	63.5	14.5	0.0
		小児科系	68	52.9	42.6	4.4	0.0
		眼科系	6	50.0	50.0	0.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	16	50.0	50.0	0.0	0.0
		皮膚科系	44	40.9	59.1	0.0	0.0
		その他	5	20.0	60.0	20.0	0.0

⑥ 実施可能な検査

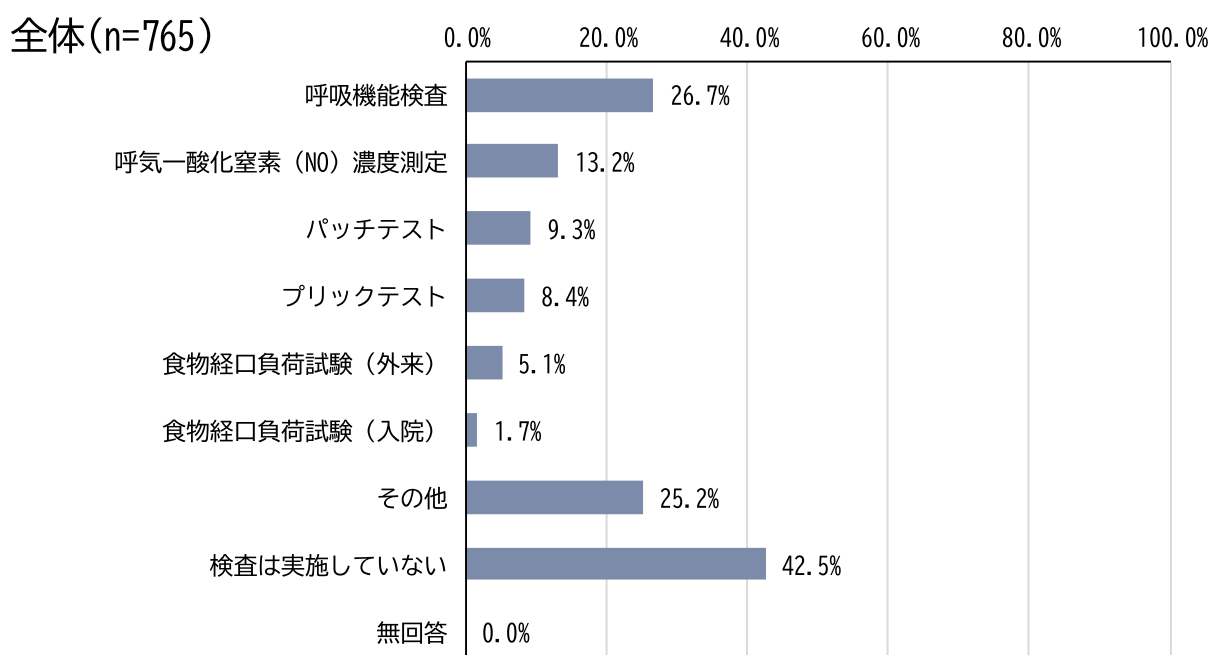
問 8. 実施可能な検査についてご回答ください。(当てはまるものすべて選択)【必須回答】

実施可能な検査について、全体では「呼吸機能検査」が 26.7%で最も高く、次いで「呼気一酸化窒素 (NO) 濃度測定」が 13.2%であった。

施設種別でみると、『病院』は『診療所』よりも「検査は実施していない」の割合が低くなっている。

診療領域別でみると、『内科系』『小児科系』は他の診療領域よりも「呼吸機能検査」を実施している割合が高くなっている。

【図 6】 実施可能な検査



【表 5】 施設種別・診療領域別 実施可能な検査

施設種別	診療領域別	回答数	呼吸機能検査	呼気一酸化窒素 (NO) 濃度測定	パッチテスト	プリックテスト	食物経口負荷試験 (外来)	食物経口負荷試験 (入院)	その他	検査は実施していない	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		765	26.7	13.2	9.3	8.4	5.1	1.7	25.2	42.5	0.0
施設種別	診療所	691	21.9	9.4	7.2	5.6	3.8	0.0	27.2	45.6	0.0
	病院	74	71.6	48.6	28.4	33.8	17.6	17.6	6.8	13.5	0.0
診療領域別	内科系	391	36.6	16.1	3.8	2.6	1.5	0.8	18.4	46.3	0.0
	小児科系	110	35.5	22.7	4.5	22.7	27.3	7.3	36.4	23.6	0.0
	眼科系	55	3.6	3.6	5.5	3.6	0.0	0.0	29.1	67.3	0.0
	耳鼻咽喉科系	74	16.2	12.2	2.7	8.1	0.0	0.0	51.4	27.0	0.0
	皮膚科系	75	2.7	1.3	60.0	28.0	4.0	2.7	24.0	21.3	0.0
	その他	60	10.0	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	15.0	75.0	0.0

⑦ 実施可能な治療

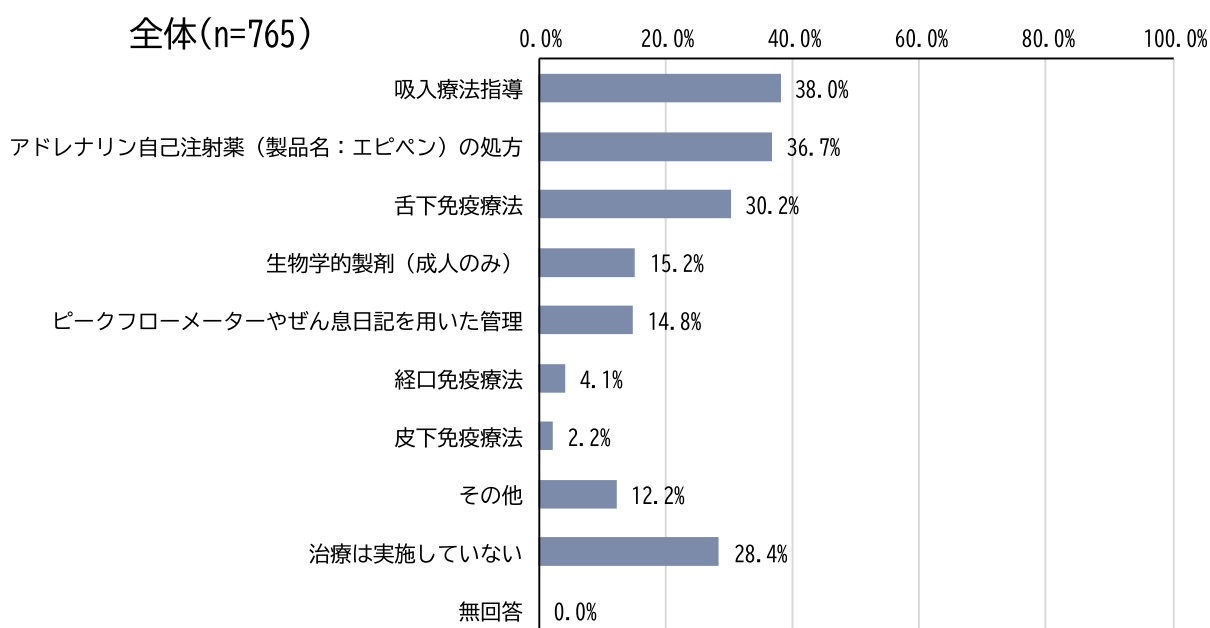
問9. 実施可能な治療についてご回答ください。(当てはまるものすべて選択)【必須回答】

実施可能な治療について、全体では「吸入療法指導」が 38.0%で最も高く、次いで「アドレナリン自己注射薬（製品名:エピペン）の処方」が 36.7%であった。

施設種別でみると、『病院』は『診療所』よりもいずれかの治療を実施している割合が高くなっている。

診療領域別でみると、『小児科系』は他の診療領域よりも「吸入療法指導」「アドレナリン自己注射薬（製品名：エピペン）の処方」の割合が高く、『皮膚科系』は他の診療領域よりも「生物学的製剤（成人のみ）」の割合が高くなっている。

【図7】 実施可能な治療



【表6】 施設種別・診療領域別 実施可能な治療

	回答数	吸入療法指導	アドレナリン自己注射薬（製品名:エピペン）の処方	舌下免疫療法	生物学的製剤（成人のみ）	ピークフローメーターやぜん息日記を用いた管理	経口免疫療法	皮下免疫療法	その他	治療は実施していない	無回答
全体	765	38.0	36.7	30.2	15.2	14.8	4.1	2.2	12.2	28.4	0.0
施設種別											
診療所	691	36.8	34.9	28.4	11.6	12.3	2.9	1.7	12.7	30.0	0.0
病院	74	50.0	54.1	47.3	48.6	37.8	14.9	6.8	6.8	13.5	0.0
診療領域別											
内科系	391	47.1	35.3	23.3	13.6	16.9	2.0	1.5	7.7	28.4	0.0
小児科系	110	78.2	75.5	62.7	11.8	37.3	17.3	1.8	6.4	6.4	0.0
眼科系	55	1.8	3.6	1.8	3.6	1.8	1.8	1.8	32.7	63.6	0.0
耳鼻咽喉科系	74	10.8	18.9	68.9	14.9	4.1	1.4	8.1	16.2	14.9	0.0
皮膚科系	75	4.0	52.0	17.3	46.7	1.3	2.7	2.7	28.0	13.3	0.0
その他	60	15.0	8.3	10.0	3.3	1.7	0.0	0.0	8.3	71.7	0.0

⑧ 提供可能な生活指導

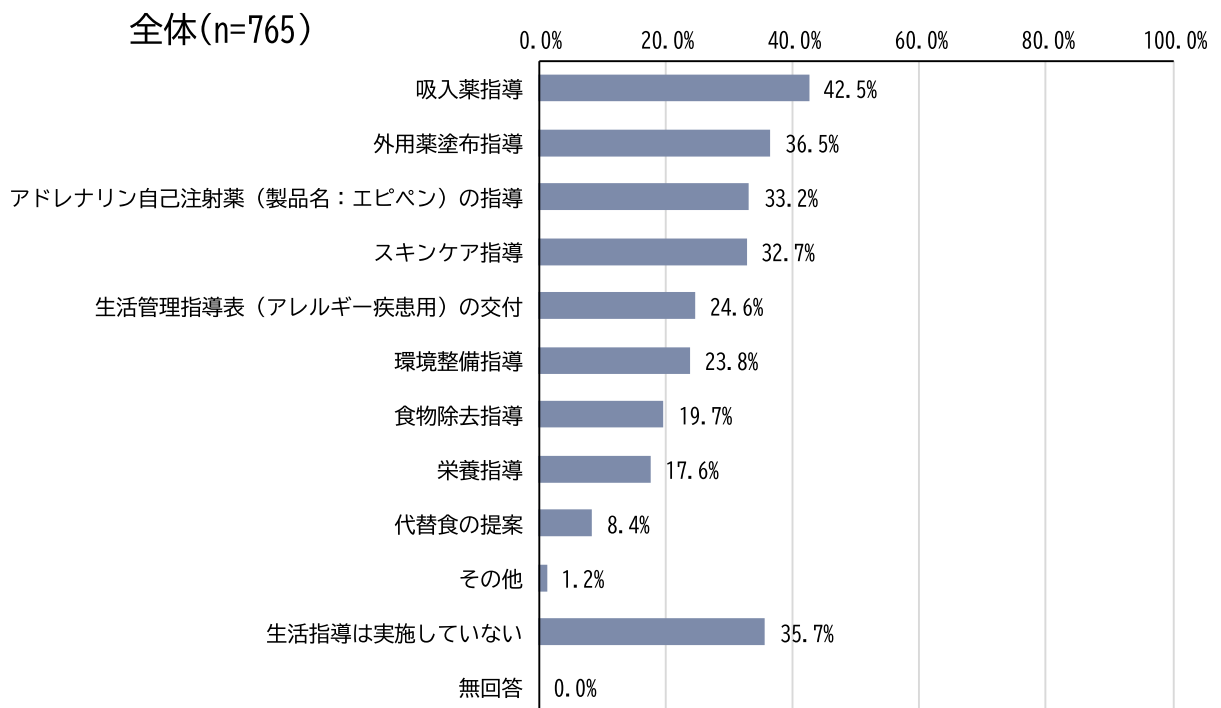
問 10. 提供可能な生活指導についてご回答ください。(当てはまるものすべて選択)【必須回答】

提供可能な生活指導について、全体では「吸入薬指導」が 42.5%で最も高く、次いで「外用薬塗布指導」が 36.5%であった。

施設種別でみると、『病院』は『診療所』よりもいずれかの生活指導を実施している割合が高くなっている。

診療領域別でみると、『小児科系』『皮膚科系』は他の診療領域よりもいずれかの生活指導を実施している割合が高くなっている。

【図 8】 提供可能な生活指導



【表 7】 施設種別・診療領域別 提供可能な生活指導

施設種別	診療領域別	回答数	吸入薬指導	外用薬塗布指導	アドレナリン自己注射薬 (製品名: エピペン) の指導	スキンケア指導	生活管理指導表 (アレルギー疾患用) の交付	環境整備指導	食物除去指導	栄養指導	代替食の提案	その他	生活指導は実施していない	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		765	42.5	36.5	33.2	32.7	24.6	23.8	19.7	17.6	8.4	1.2	35.7	0.0
施設種別	診療所	691	41.1	35.5	31.5	31.5	23.3	22.4	18.2	15.3	6.9	0.7	37.2	0.0
	病院	74	55.4	45.9	48.6	43.2	36.5	36.5	33.8	39.2	21.6	5.4	21.6	0.0
診療領域別	内科系	391	50.1	23.8	29.7	17.6	15.6	15.6	9.7	16.4	3.3	0.5	36.6	0.0
	小児科系	110	94.5	87.3	73.6	90.0	84.5	67.3	73.6	49.1	36.4	0.0	3.6	0.0
	眼科系	55	3.6	14.5	1.8	3.6	5.5	9.1	1.8	1.8	1.8	5.5	70.9	0.0
	耳鼻咽喉科系	74	13.5	8.1	10.8	4.1	12.2	18.9	8.1	2.7	2.7	2.7	58.1	0.0
	皮膚科系	75	5.3	89.3	56.0	89.3	28.0	29.3	30.7	13.3	9.3	1.3	5.3	0.0
	その他	60	15.0	15.0	10.0	16.7	1.7	10.0	3.3	6.7	1.7	1.7	66.7	0.0

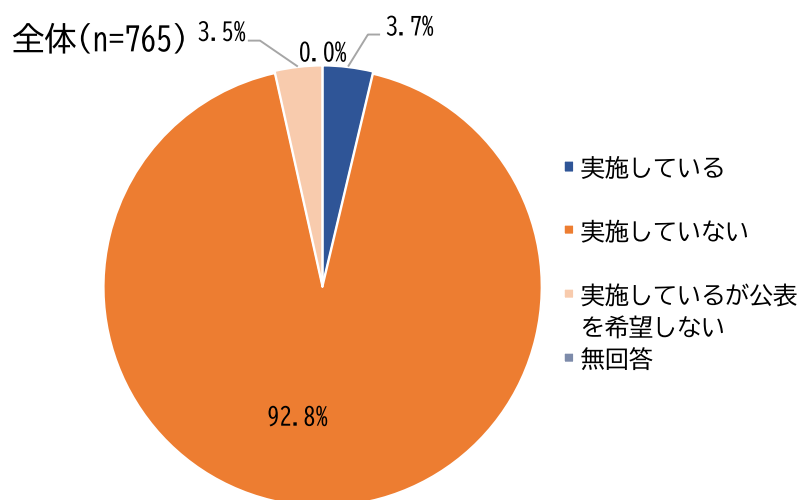
⑨ アレルギー疾患のオンライン診療実施状況

問 11. アレルギー疾患のオンライン診療を実施していますか。(一つを選択)【必須回答】

アレルギー疾患のオンライン診療実施状況について、「実施している」は3.7%、「実施していない」は92.8%、「実施しているが公表を希望しない」は3.5%であった。

施設種別・診療領域別にみても、大きな違いはみられなかった。

【図 9】 アレルギー疾患のオンライン診療実施状況



2. 医療機関連携について

① 他医療機関への患者紹介状況

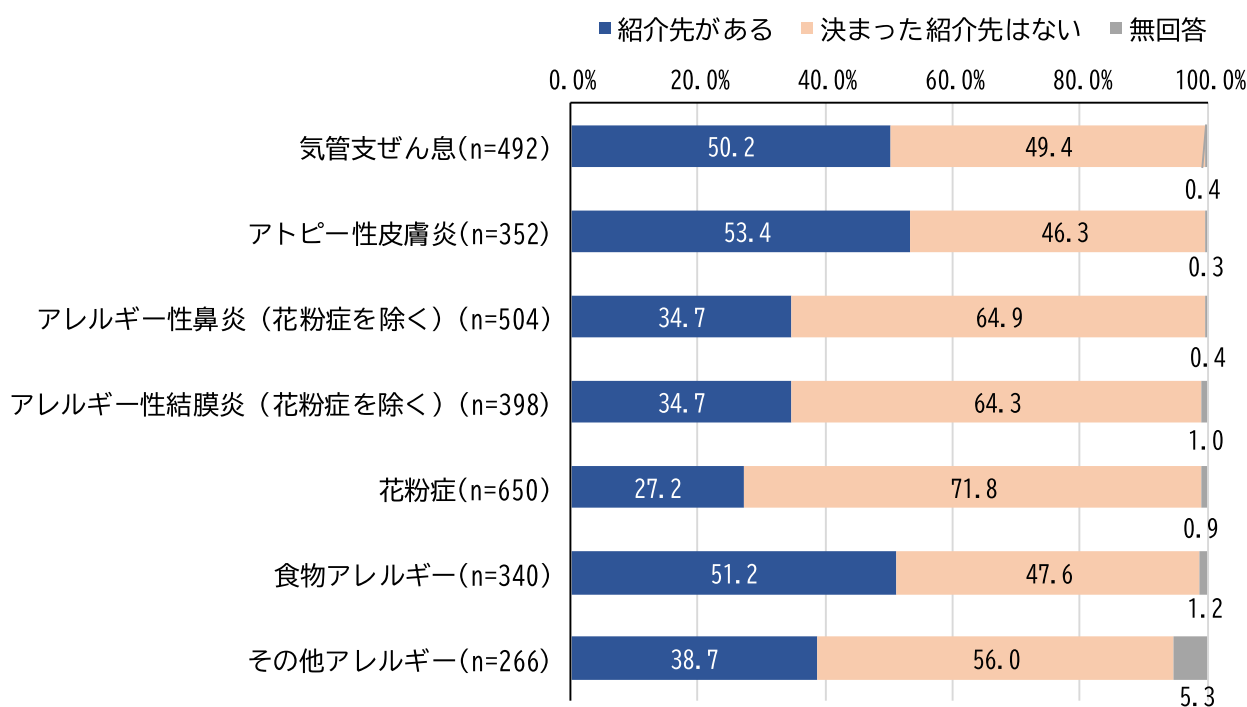
【問3で「診療所」「病院（確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院）」の医療機関が回答】・【問6で診療可能と回答した疾患のみ回答】

問12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。（一つを選択）

他医療機関への患者紹介状況について「紹介先がある」の割合は、「アトピー性皮膚炎」が53.4%で最も高く、「花粉症」が27.2%で最も低かった（「その他アレルギー」を除く）。

診療領域別でみると、「食物アレルギー」の「紹介先がある」の割合は、全体の51.2%に対し『内科系』は36.5%と差が大きい（有意差あり）。

【図10】他医療機関への患者紹介状況



【表8】施設種別・診療領域別 他医療機関への患者紹介状況

			回答数	紹介先がある	決まった紹介先はない	無回答
気管支ぜん息	施設種別	診療所	474	51.1	48.7	0.2
		病院	18	27.8	66.7	5.6
	診療領域別	内科系	345	44.1	55.7	0.3
		小児科系	96	76.0	24.0	0.0
		眼科系	4	25.0	50.0	25.0
		耳鼻咽喉科系	20	45.0	55.0	0.0
		皮膚科系	9	55.6	44.4	0.0
		その他	18	38.9	61.1	0.0
アトピー性皮膚炎	施設種別	診療所	338	54.1	45.9	0.0
		病院	14	35.7	57.1	7.1
	診療領域別	内科系	174	40.2	59.8	0.0
		小児科系	94	70.2	29.8	0.0
		眼科系	2	50.0	0.0	50.0
		耳鼻咽喉科系	7	71.4	28.6	0.0
		皮膚科系	65	63.1	36.9	0.0
		その他	10	50.0	50.0	0.0
アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	489	35.2	64.4	0.4
		病院	15	20.0	80.0	0.0
	診療領域別	内科系	306	31.7	67.6	0.7
		小児科系	91	42.9	57.1	0.0
		眼科系	8	37.5	62.5	0.0
		耳鼻咽喉科系	64	35.9	64.1	0.0
		皮膚科系	18	50.0	50.0	0.0
		その他	17	23.5	76.5	0.0
アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	386	35.2	63.7	1.0
		病院	12	16.7	83.3	0.0
	診療領域別	内科系	212	34.0	65.6	0.5
		小児科系	88	44.3	55.7	0.0
		眼科系	51	17.6	76.5	5.9
		耳鼻咽喉科系	20	35.0	65.0	0.0
		皮膚科系	14	50.0	50.0	0.0
		その他	13	30.8	69.2	0.0
花粉症	施設種別	診療所	631	27.6	71.6	0.8
		病院	19	15.8	78.9	5.3
	診療領域別	内科系	358	24.0	75.1	0.8
		小児科系	95	43.2	56.8	0.0
		眼科系	46	17.4	76.1	6.5
		耳鼻咽喉科系	65	30.8	69.2	0.0
		皮膚科系	50	32.0	68.0	0.0
		その他	36	16.7	83.3	0.0
食物アレルギー	施設種別	診療所	332	51.8	47.0	1.2
		病院	8	25.0	75.0	0.0
	診療領域別	内科系	181	36.5	61.9	1.7
		小児科系	93	79.6	20.4	0.0
		眼科系	1	100.0	0.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	12	66.7	33.3	0.0
		皮膚科系	42	52.4	47.6	0.0
		その他	11	27.3	63.6	9.1
その他アレルギー	施設種別	診療所	258	39.5	55.4	5.0
		病院	8	12.5	75.0	12.5
	診療領域別	内科系	152	29.6	65.1	5.3
		小児科系	59	57.6	33.9	8.5
		眼科系	4	25.0	75.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	10	50.0	50.0	0.0
		皮膚科系	36	47.2	52.8	0.0
		その他	5	20.0	60.0	20.0

② 医療機関紹介先種別

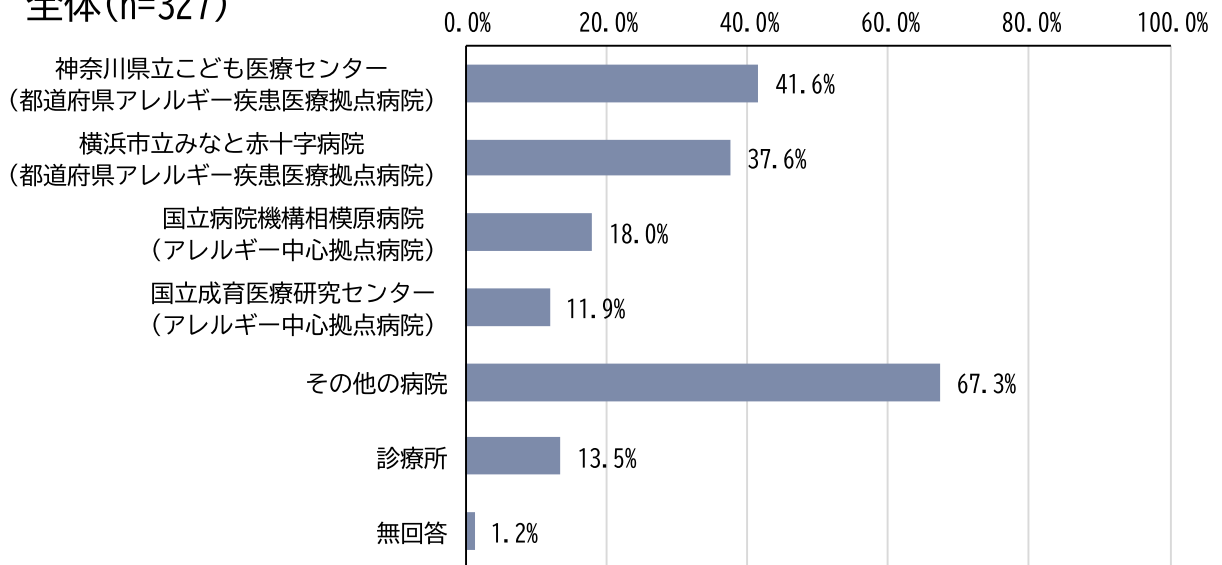
【問 12 で一つでも「紹介先がある」を選択した場合、回答】

問 13. 他の医療機関へ患者を紹介する場合、紹介先の種別についてご回答ください。(当てはまるものすべて選択)

医療機関紹介先種別について、全体では「神奈川県立こども医療センター（都道府県アレルギー疾患医療拠点病院）」が41.6%で最も高く、次いで「横浜市立みなと赤十字病院（都道府県アレルギー疾患医療拠点病院）」が37.6%であった。

【図 11】 医療機関紹介先種別

全体(n=327)



【表 9】 施設種別・診療領域別 医療機関紹介先種別

		回答数	神奈川県立こども医療センター (都道府県アレルギー疾患医療拠点病院)	横浜市立みなと赤十字病院 (都道府県アレルギー疾患医療拠点病院)	国立病院機構相模原病院 (アレルギー中心拠点病院)	国立成育医療研究センター (アレルギー中心拠点病院)	その他の病院	診療所	無回答
全体		327	41.6	37.6	18.0	11.9	67.3	13.5	1.2
施設種別	診療所	322	41.9	37.9	18.3	11.8	67.1	13.7	1.2
	病院	5	20.0	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0
診療領域別	内科系	161	23.6	42.2	13.0	7.5	60.9	14.9	2.5
	小児科系	79	64.6	36.7	31.6	22.8	67.1	10.1	0.0
	眼科系	11	36.4	27.3	0.0	0.0	81.8	9.1	0.0
	耳鼻咽喉科系	25	48.0	32.0	12.0	4.0	72.0	16.0	0.0
	皮膚科系	42	64.3	33.3	19.0	16.7	81.0	9.5	0.0
	その他	9	44.4	11.1	22.2	11.1	88.9	33.3	0.0

③ 紹介先としての「その他の病院」「診療所」の医療機関

【問 13 で「その他の病院」「診療所」を回答した場合のみ回答】
問 14. 紹介先の医療機関名をご回答ください（回答は任意です）。

紹介先としてあがった「病院」として 175 件の回答があり、そのうち、市内の病院を回答した割合は 86.3%であった。

また、紹介先としてあがった「診療所」として 12 件の回答があり、全て市内に所在する医療機関であった（回答医療機関名のみで判断）。

紹介先としてあがった病院の所在地	
横浜市内の病院を回答した割合	86.3%
横浜市外の病院を回答した割合	12.0%
決まっている病院はない	1.7%
回答数	175件

④ 紹介先医療機関に求めること

【問3で「診療所」「病院（確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院）」の医療機関が回答】

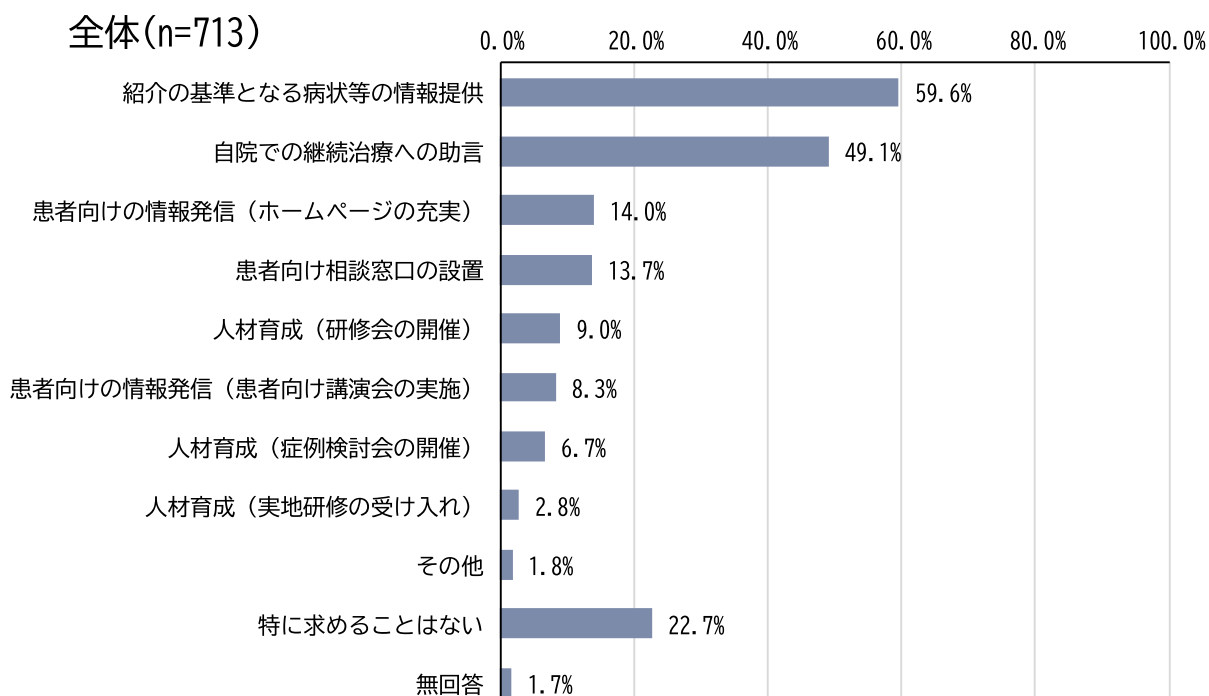
問15. 紹介先の医療機関に求めることについて、ご回答ください。（当てはまるものすべて選択）

紹介先医療機関に求めることについて、全体では「紹介の基準となる病状等の情報提供」が59.6%で最も高く、次いで「自院での継続治療への助言」が49.1%であった。

施設種別でみると、大きな違いはみられなかった。

診療領域別でみると、『小児科系』では「人材育成（研修会の開催）」と「人材育成（症例検討会の開催）」が他の診療領域よりも高くなっている。

【図12】 紹介先医療機関に求めること



【表10】 施設種別・診療領域別 紹介先医療機関に求めること

	回答数	紹介の基準となる病状等の情報提供	自院での継続治療への助言	患者向けの情報発信（ホームページの充実）	患者向け相談窓口の設置	人材育成（研修会の開催）	患者向けの情報発信（患者向け講演会の実施）	人材育成（症例検討会の開催）	人材育成（実地研修の受け入れ）	その他	特に求めることはない	無回答
全体	713	59.6	49.1	14.0	13.7	9.0	8.3	6.7	2.8	1.8	22.7	1.7
施設種別												
診療所	691	59.9	48.8	13.6	13.6	9.0	8.2	6.7	2.6	1.9	22.7	1.7
病院	22	50.0	59.1	27.3	18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	0.0	22.7	0.0
診療領域別												
内科系	375	62.1	56.3	13.6	14.9	9.1	7.7	5.1	3.2	2.1	20.0	0.8
小児科系	96	66.7	58.3	11.5	12.5	22.9	10.4	20.8	6.3	1.0	12.5	5.2
眼科系	51	45.1	33.3	13.7	9.8	0.0	7.8	0.0	0.0	0.0	41.2	0.0
耳鼻咽喉科系	65	53.8	27.7	12.3	12.3	4.6	10.8	6.2	0.0	3.1	26.2	3.1
皮膚科系	66	59.1	51.5	24.2	16.7	6.1	10.6	7.6	3.0	0.0	19.7	3.0
その他	60	51.7	23.3	11.7	10.0	1.7	3.3	0.0	0.0	3.3	40.0	0.0

⑤ 逆紹介の対応状況

【問3で「診療所」「病院（確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院）」の医療機関が回答】

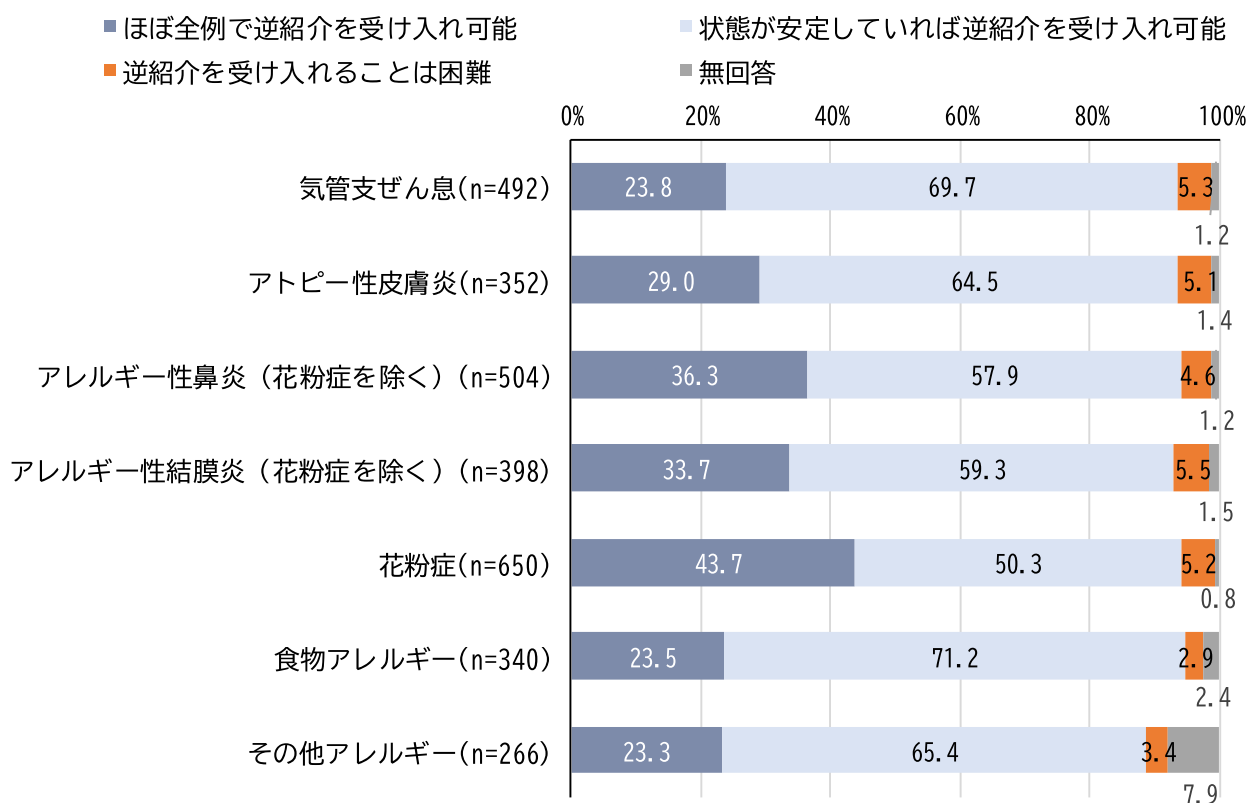
【問6で診療可能と回答した疾患のみ表示】

問16. 逆紹介の対応状況について、ご回答ください。（一つを選択）

逆紹介の対応状況について「ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能」の割合は、「花粉症」が43.7%で最も高く、「食物アレルギー」が23.5%で最も低かった（「その他アレルギー」を除く）。

施設種別でみると、『診療所』の逆紹介の対応状況について、「ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能」の割合は「花粉症」の44.4%に対し、「食物アレルギー」は24.1%、「気管支ぜん息」は23.8%であり、有意差がみられた。

【図13】 逆紹介の対応状況



【表 11】施設種別・診療領域別 逆紹介の対応状況

		回答数	ほぼ全例 で逆紹介 を受け入 れ可能	状態が安 定してい れば逆紹 介を受け 入れ可能	逆紹介を 受け入れ ることは 困難	無回答	
気管支ぜん息	施設種別	診療所	474	23.8	70.5	4.6	1.1
		病院	18	22.2	50.0	22.2	5.6
	診療領域別	内科系	345	21.7	72.2	4.9	1.2
		小児科系	96	36.5	60.4	2.1	1.0
		眼科系	4	0.0	25.0	50.0	25.0
		耳鼻咽喉科系	20	15.0	70.0	15.0	0.0
		皮膚科系	9	33.3	44.4	22.2	0.0
その他	18	5.6	94.4	0.0	0.0		
アトピー性皮膚炎	施設種別	診療所	338	30.2	64.5	4.1	1.2
		病院	14	0.0	64.3	28.6	7.1
	診療領域別	内科系	174	19.0	73.6	6.3	1.1
		小児科系	94	35.1	59.6	4.3	1.1
		眼科系	2	0.0	0.0	50.0	50.0
		耳鼻咽喉科系	7	28.6	71.4	0.0	0.0
		皮膚科系	65	50.8	46.2	1.5	1.5
その他	10	10.0	80.0	10.0	0.0		
アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	489	37.0	57.7	4.1	1.2
		病院	15	13.3	66.7	20.0	0.0
	診療領域別	内科系	306	28.4	64.7	5.6	1.3
		小児科系	91	46.2	49.5	3.3	1.1
		眼科系	8	25.0	75.0	0.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	64	65.6	32.8	1.6	0.0
		皮膚科系	18	33.3	61.1	0.0	5.6
その他	17	23.5	64.7	11.8	0.0		
アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	386	33.9	59.6	4.9	1.6
		病院	12	25.0	50.0	25.0	0.0
	診療領域別	内科系	212	25.9	66.5	6.1	1.4
		小児科系	88	39.8	54.5	3.4	2.3
		眼科系	51	60.8	39.2	0.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	20	40.0	40.0	20.0	0.0
		皮膚科系	14	21.4	71.4	0.0	7.1
その他	13	15.4	69.2	15.4	0.0		
花粉症	施設種別	診療所	631	44.4	50.2	4.6	0.8
		病院	19	21.1	52.6	26.3	0.0
	診療領域別	内科系	358	41.1	52.8	5.3	0.8
		小児科系	95	51.6	44.2	3.2	1.1
		眼科系	46	45.7	47.8	4.3	2.2
		耳鼻咽喉科系	65	73.8	24.6	1.5	0.0
		皮膚科系	50	22.0	72.0	6.0	0.0
その他	36	22.2	61.1	16.7	0.0		
食物アレルギー	施設種別	診療所	332	24.1	70.8	2.7	2.4
		病院	8	0.0	87.5	12.5	0.0
	診療領域別	内科系	181	22.1	72.4	3.3	2.2
		小児科系	93	30.1	65.6	2.2	2.2
		眼科系	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	12	25.0	75.0	0.0	0.0
		皮膚科系	42	21.4	73.8	2.4	2.4
その他	11	0.0	90.9	0.0	9.1		
その他アレルギー	施設種別	診療所	258	24.0	65.1	3.1	7.8
		病院	8	0.0	75.0	12.5	12.5
	診療領域別	内科系	152	18.4	69.7	3.9	7.9
		小児科系	59	28.8	57.6	3.4	10.2
		眼科系	4	0.0	75.0	25.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	10	30.0	60.0	0.0	10.0
		皮膚科系	36	33.3	63.9	0.0	2.8
その他	5	40.0	40.0	0.0	20.0		

⑥ 逆紹介の受け入れが困難な理由

【問 16 で一つでも「逆紹介を受け入れることは困難」と回答している場合、回答】

問 17. 先ほど「逆紹介を受け入れることは困難」とご回答いただきましたが、その理由を教えてください。※最大 200 文字程度

逆紹介の受け入れが困難な理由について、「診療領域外/専門的な治療ができない」が 23 件と最も多く、次いで「専門医/専門としている医師がいない」「診療形態や運営上の制約」がそれぞれ 7 件であった。

意見	件数
診療領域外/専門的な治療ができない	23
専門医/専門としている医師がいない	7
診療形態や運営上の制約	7
設備・治療体制がない/不足している	5
一般診療が圧迫される	3
条件付きであれば受け入れが可能	2
特になし	0
その他	3
(回答数)	47

※自由回答を分類するため、カテゴリー分けを実施。

※ 1 つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合がある。

【代表的な意見の紹介（上位 3 項目）】

①診療領域外/専門的な治療ができない
<ul style="list-style-type: none"> ● 慢性疾患の外来フォローを行っていない。 ● 呼吸器、アレルギー専門の診療は行っていないので、急変時の対応が不可能なため、継続した診療は困難。 ● 病状悪化時の対応が困難なため。
②専門医/専門としている医師がいない
<ul style="list-style-type: none"> ● アレルギー専門医ではないため。 ● 専門医がいないため。
③診療形態や運営上の制約
<ul style="list-style-type: none"> ● 社内診療所で院内処方のため、使用できる薬剤が限られるから。 ● 休日急患診療所のため、かかりつけ医のような対応ができないから。

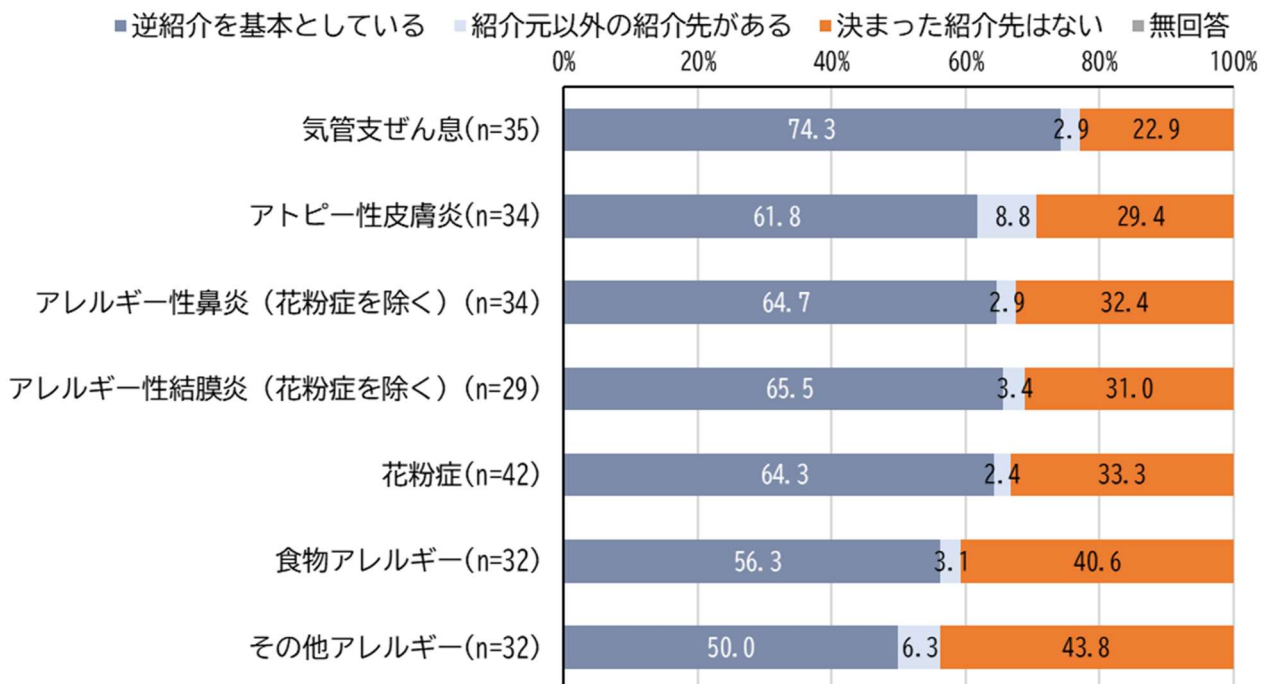
⑦ 状態安定患者の紹介

【問3で「3. 病院（基本的に診断から増悪時の治療まで自院で対応可能な病院）」の医療機関が回答】・【問6で診療可能と回答した疾患のみ回答】

問18. 状態が安定した患者の紹介についてご回答ください。（一つを選択）

状態安定患者の紹介について、「逆紹介を基本としている」と回答した割合は、「気管支ぜん息」が74.3%で最も高く、「食物アレルギー」が56.3%で最も低かった（「その他アレルギー」を除く）。

【図14】状態安定患者の紹介



【表 12】施設種別・診療領域別 状態安定患者の紹介

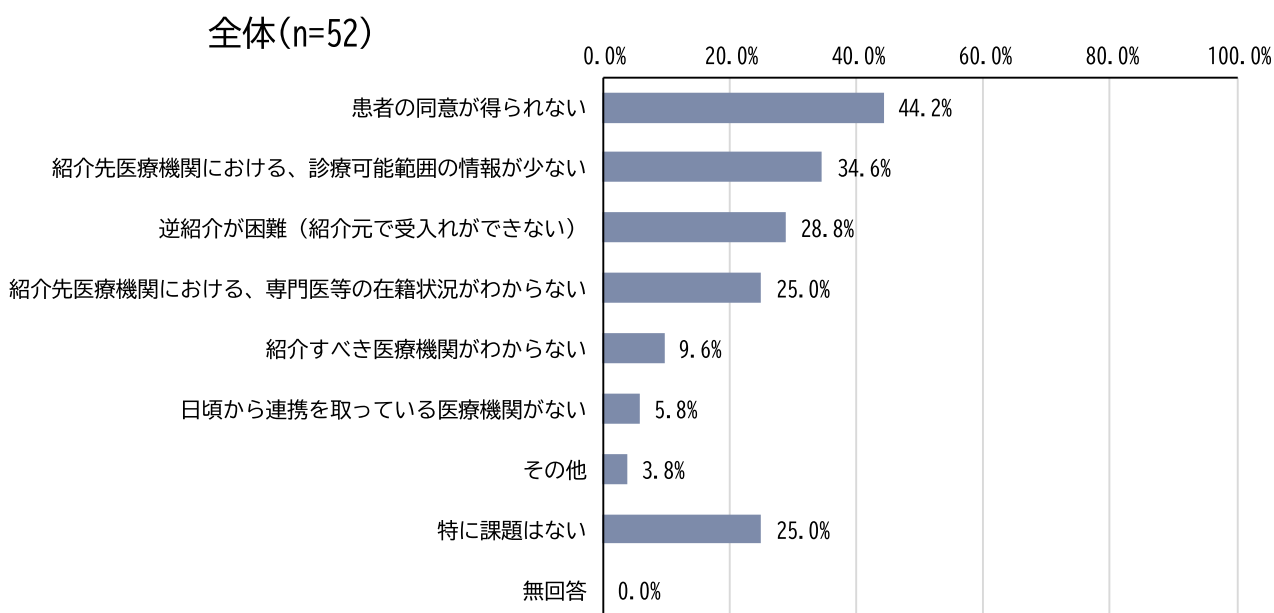
			回答数	逆紹介を基本としている	紹介元以外の紹介先がある	決まった紹介先はない	無回答
気管支ぜん息	施設種別	診療所	-	-	-	-	-
		病院	35	74.3	2.9	22.9	0.0
	診療領域別	内科系	15	66.7	0.0	33.3	0.0
		小児科系	14	78.6	7.1	14.3	0.0
		眼科系	2	50.0	0.0	50.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	4	100.0	0.0	0.0	0.0
		皮膚科系	0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
アトピー性皮膚炎	施設種別	診療所	-	-	-	-	-
		病院	34	61.8	8.8	29.4	0.0
	診療領域別	内科系	6	50.0	0.0	50.0	0.0
		小児科系	13	69.2	7.7	23.1	0.0
		眼科系	2	50.0	0.0	50.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	4	75.0	0.0	25.0	0.0
		皮膚科系	9	55.6	22.2	22.2	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	-	-	-	-	-
		病院	34	64.7	2.9	32.4	0.0
	診療領域別	内科系	8	37.5	0.0	62.5	0.0
		小児科系	14	71.4	7.1	21.4	0.0
		眼科系	2	50.0	0.0	50.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	9	88.9	0.0	11.1	0.0
		皮膚科系	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）	施設種別	診療所	-	-	-	-	-
		病院	29	65.5	3.4	31.0	0.0
	診療領域別	内科系	6	50.0	0.0	50.0	0.0
		小児科系	14	71.4	7.1	21.4	0.0
		眼科系	4	75.0	0.0	25.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	4	75.0	0.0	25.0	0.0
		皮膚科系	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
花粉症	施設種別	診療所	-	-	-	-	-
		病院	42	64.3	2.4	33.3	0.0
	診療領域別	内科系	12	41.7	0.0	58.3	0.0
		小児科系	14	71.4	7.1	21.4	0.0
		眼科系	3	66.7	0.0	33.3	0.0
		耳鼻咽喉科系	9	88.9	0.0	11.1	0.0
		皮膚科系	4	50.0	0.0	50.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
食物アレルギー	施設種別	診療所	-	-	-	-	-
		病院	32	56.3	3.1	40.6	0.0
	診療領域別	内科系	6	33.3	0.0	66.7	0.0
		小児科系	13	61.5	7.7	30.8	0.0
		眼科系	2	50.0	0.0	50.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	4	75.0	0.0	25.0	0.0
		皮膚科系	7	57.1	0.0	42.9	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他アレルギー	施設種別	診療所	-	-	-	-	-
		病院	32	50.0	6.3	43.8	0.0
	診療領域別	内科系	7	28.6	0.0	71.4	0.0
		小児科系	9	77.8	11.1	11.1	0.0
		眼科系	2	50.0	0.0	50.0	0.0
		耳鼻咽喉科系	6	33.3	0.0	66.7	0.0
		皮膚科系	8	50.0	12.5	37.5	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑧ 状態安定患者の紹介で課題と感ずること

【問3で「3. 病院（基本的に診断から増悪時の治療まで自院で対応可能な病院）」の医療機関が回答】・【問6で診療可能と回答した疾患が一つでもある場合回答】
 問19. 状態が安定した患者の紹介において、課題と感ずることを教えてください。（当てはまるものすべて選択）

状態安定患者の紹介で課題と感ずることについて、全体では「患者の同意が得られない」が44.2%で最も高く、次いで「紹介先医療機関における、診療可能範囲の情報が少ない」が34.6%であった。

【図15】状態安定患者の紹介で課題と感ずること



【表13】施設種別・診療領域別 状態安定患者の紹介で課題と感ずること

施設種別	診療領域別	回答数	患者の同意が得られない	紹介先医療機関における、診療可能範囲の情報が少ない	逆紹介が困難（紹介元で受入れができない）	紹介先医療機関における、専門医等の在籍状況がわからない	紹介すべき医療機関がわからない	日頃から連携を取っている医療機関がない	その他	特に課題はない	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		52	44.2	34.6	28.8	25.0	9.6	5.8	3.8	25.0	0.0
施設種別	診療所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	病院	52	44.2	34.6	28.8	25.0	9.6	5.8	3.8	25.0	0.0
診療領域別	内科系	16	56.3	31.3	37.5	25.0	18.8	12.5	0.0	18.8	0.0
	小児科系	14	28.6	42.9	21.4	35.7	7.1	0.0	7.1	21.4	0.0
	眼科系	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0
	耳鼻咽喉科系	9	55.6	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	皮膚科系	9	55.6	44.4	44.4	44.4	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

3. アレルギー診療に関する課題や期待について

① アレルギー診療で課題と感ずること

問 20. アレルギー診療において、課題と感ずることを教えてください。(当てはまるものすべて選択)

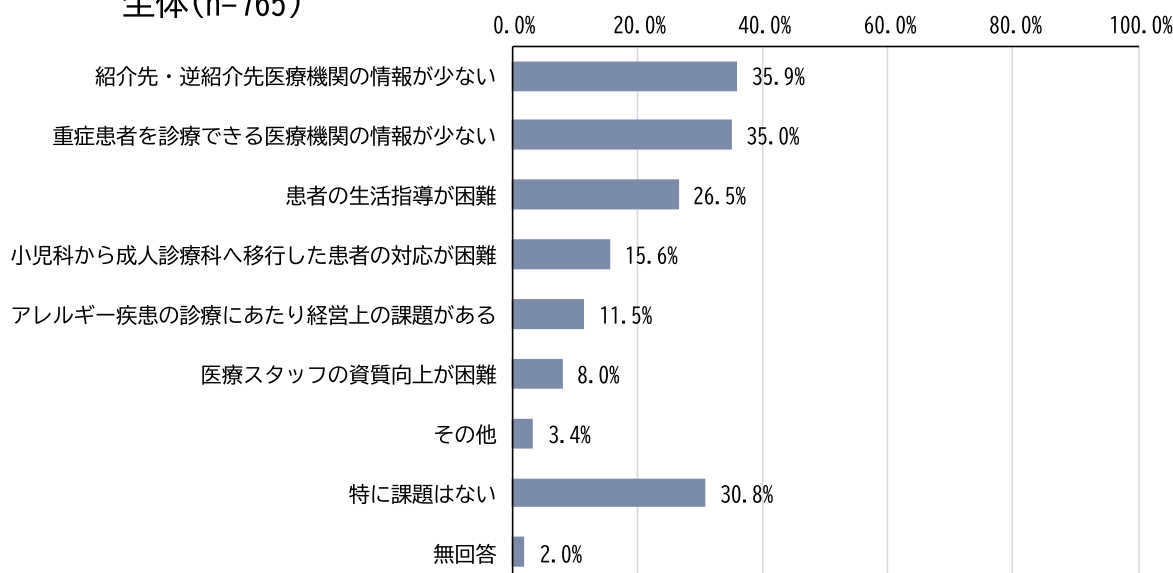
アレルギー診療で課題と感ずることについて、全体では「紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない」が 35.9%で最も高く、次いで「重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない」が 35.0%であった。

施設種別でみると、『診療所』は「重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない」の割合が最も高く、『病院』では「紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない」が最も高くなっている。

診療領域別でみると、『小児科系』は他の診療領域よりも「小児科から成人診療科へ移行した患者の対応が困難」「アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある」の割合が高くなっている。

【図 16】アレルギー診療で課題と感ずること

全体(n=765)



【表 14】施設種別・診療領域別 アレルギー診療で課題と感ずること

	回答数	紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない	重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない	患者の生活指導が困難	小児科から成人診療科へ移行した患者の対応が困難	アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある	医療スタッフの資質向上が困難	その他	特に課題はない	無回答
全体	765	35.9	35.0	26.5	15.6	11.5	8.0	3.4	30.8	2.0
施設種別										
診療所	691	35.3	36.3	26.8	14.0	10.4	6.9	3.2	31.4	2.0
病院	74	41.9	23.0	24.3	29.7	21.6	17.6	5.4	25.7	1.4
診療領域別										
内科系	391	40.2	41.4	32.2	12.5	9.0	9.0	2.6	29.4	1.3
小児科系	110	23.6	20.0	23.6	44.5	26.4	8.2	5.5	16.4	6.4
眼科系	55	29.1	34.5	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	49.1	0.0
耳鼻咽喉科系	74	29.7	24.3	16.2	9.5	14.9	6.8	5.4	40.5	1.4
皮膚科系	75	45.3	42.7	20.0	13.3	16.0	9.3	4.0	28.0	1.3
その他	60	33.3	25.0	23.3	6.7	1.7	8.3	5.0	41.7	1.7

②アレルギー診療で最も課題と感ずること

【問 20 で「特に課題はない」以外を回答している場合、回答】

問 21. 先ほど教えていただいたアレルギー診療における課題のうち、最も課題だと思うものを一つお選びください。（一つを選択）

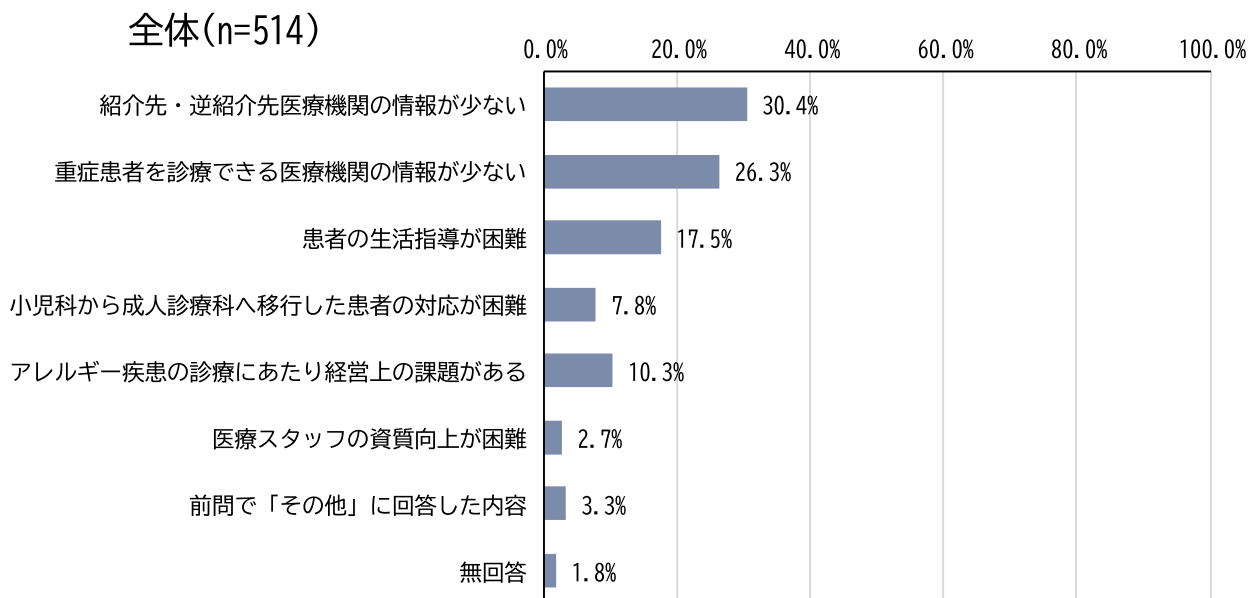
アレルギー診療で最も課題と感ずることについて、「紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない」が 30.4%で最も高く、次いで「重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない」が 26.3%であった。

施設種別では、『病院』は『診療所』よりも「アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある」の割合が高くなっている。

診療領域別では、『小児科系』は他の診療領域よりも「小児科から成人診療科へ移行した患者の対応が困難」「アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある」の割合が高くなっている。

※選択肢の並び順は、問 20 の回答の並び順のとおり。

【図 17】アレルギー診療で最も課題と感ずること



【表 15】施設種別・診療領域別 アレルギー診療で最も課題と感ずること

	回答数	紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない	重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない	患者の生活指導が困難	小児科から成人診療科へ移行した患者の対応が困難	アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある	医療スタッフの資質向上が困難	前問で「その他」に回答した内容	無回答
全体	514	30.4	26.3	17.5	7.8	10.3	2.7	3.3	1.8
施設種別									
診療所	460	30.7	27.0	17.8	7.2	9.3	2.8	3.5	1.7
病院	54	27.8	20.4	14.8	13.0	18.5	1.9	1.9	1.9
診療領域別									
内科系	271	34.3	28.0	20.3	3.3	6.3	3.0	3.0	1.8
小児科系	85	9.4	16.5	15.3	30.6	22.4	2.4	3.5	0.0
眼科系	28	39.3	50.0	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
耳鼻咽喉科系	43	18.6	20.9	16.3	11.6	18.6	4.7	7.0	2.3
皮膚科系	53	41.5	30.2	5.7	0.0	17.0	1.9	1.9	1.9
その他	34	41.2	17.6	26.5	0.0	0.0	2.9	5.9	5.9

③アレルギー診療で最も課題と感じる理由

【問 21 に回答した場合、回答】

問 22. 先ほど教えていただいたアレルギー診療における課題のうち、最も課題だと思う理由を教えてください。(回答は任意です) ※最大 200 文字程度

アレルギー診療で最も課題と感じることについて、その理由に関して各選択肢ごとに理由を一部抜粋して紹介する。

※選択肢の並び順は、問 20 の回答の並び順のとおりであり、紹介数は紙面の都合上、各選択肢最大 5 つまで紹介する。

選択肢	意見
紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない ⇒問 21 回答率：30.4%	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの医療機関で、どんな検査・治療を行えるのかわかる情報が欲しい ● 紹介先病院における受け入れ状況や基準がわからない ● 急変時や病状悪化時の対応が心配だから ● 紹介先の医療機関でどの程度まで対応可能かが見えずらいこと ● アナフィラキシー患者を確実に受け入れてくれる病院の情報が欲しい
重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない ⇒問 21 回答率：26.3%	<ul style="list-style-type: none"> ● 急な全身状態悪化の場合の対応が困難 ● アレルギーの診断やその後の治療は難しく、救命に関わることが発生するから ● 重症アレルギー患者を迅速に受け入れてくれる医療機関が見つからない ● どのような対応ができるかの詳細が未知 ● コントロール不良が続くと患者 QOL も下がるため、できれば早めに紹介したいが、どここの医療機関がよいのか悩む
患者の生活指導が困難 ⇒問 21 回答率：17.5%	<ul style="list-style-type: none"> ● 限られた診療時間内で丁寧に指導を行うのは限界がある ● 問診など、一人ひとりの診療に時間がかかる ● 生活指導を行う人材がいない ● 疾患や治療への理解度が患者により様々であるため ● 普段からの生活習慣に課題がある場合、ある程度の年齢になるとなかなか変えてもらえない
小児科から成人診療科へ移行した患者の対応が困難 ⇒問 21 回答率：7.8%	<ul style="list-style-type: none"> ● アレルギーを標榜している内科がすぐみつからない ● 成人の食物アレルギー診療医療機関が少ない ● 小児科で診ていた患者さんが成人した際の引継ぎ先がわからない ● 小学校高学年から中高生の初診患者が来訪した際、どう対応しようか苦慮することが多い ● 治癒していないが、自己判断で受診しなくなってしまう
アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある ⇒問 21 回答率：10.3%	<ul style="list-style-type: none"> ● 6 歳未満で小児科外来診療料を算定していると、専門外来をすればするほど赤字になる ● 6 歳未満の小児では診療報酬が包括での請求であるため、食物経口負荷試験や特異的 IgE 抗体検査のコストが割に合わない ● 内科診療所の運営において、加算が特に大きくないので注力できない ● 生物学的製剤は、仕入れ価格が高すぎる ● 指導に時間を要する割に、保険点数が少ない
医療スタッフの資質向上が困難 ⇒問 21 回答率：2.7%	<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強会の時間を確保できない ● 医師以外も患者の生活指導に加わることができればよいが、現状習熟したスタッフが少ない

④アレルギー疾患医療拠点病院に期待すること

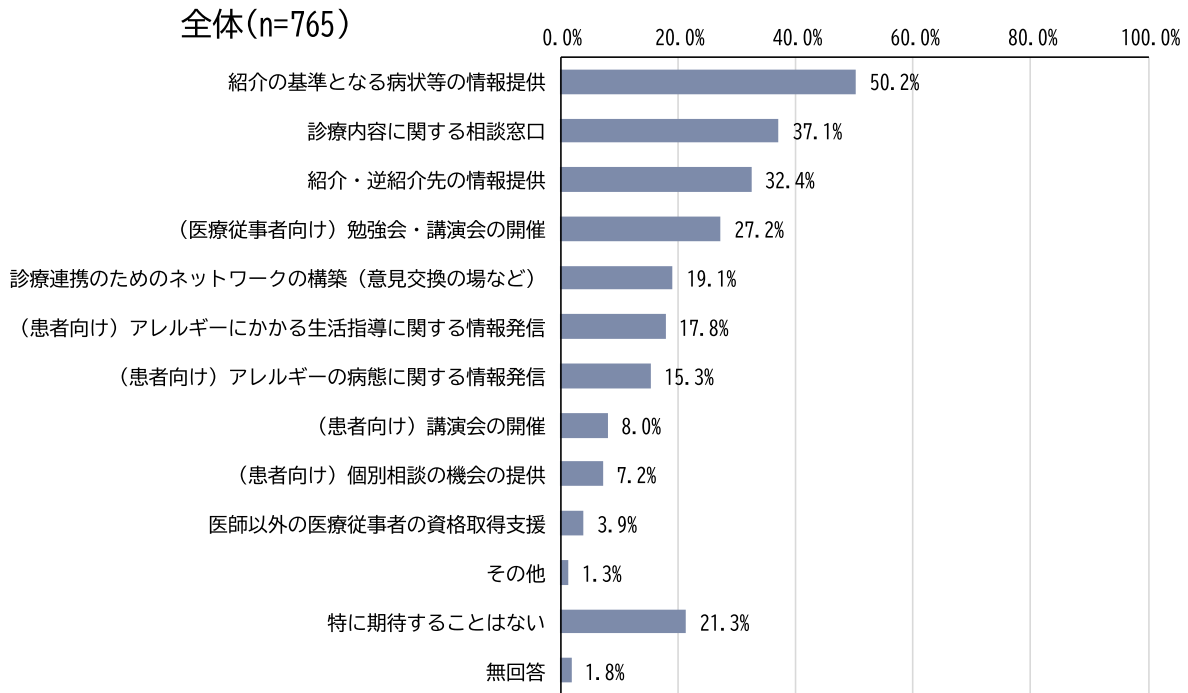
問 23. 神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院※（神奈川県立こども医療センター、横浜市立みなと赤十字病院）に期待することについてご回答ください。（当てはまるものすべて選択）
 ※都道府県アレルギー疾患医療拠点病院：アレルギー疾患医療の中心的な役割を果たす病院として都道府県が指定。重症・難治性患者の診断・治療・管理や、患者・家族等への適切な情報提供を行うほか、医療従事者や関係者の人材育成などに取り組む。

アレルギー疾患医療拠点病院に期待することについて、全体では「紹介の基準となる病状等の情報提供」が 50.2%で最も高く、次いで「診療内容に関する相談窓口」が 37.1%であった。

施設種別でみると、『病院』は『診療所』よりも「診療連携のためのネットワークの構築（意見交換の場など）」の割合が高くなっている。

診療領域別にみても、大きな違いはみられなかった。

【図 18】アレルギー疾患医療拠点病院に期待すること



【表 16】施設種別・診療領域別 アレルギー疾患医療拠点病院に期待すること

	回答数	紹介の基準となる病状等の情報提供	診療内容に関する相談窓口	紹介・逆紹介先の情報提供	(医療従事者向け) 勉強会・講演会の開催	診療連携のためのネットワークの構築 (意見交換の場など)	(患者向け) アレルギーにかかる生活指導に関する情報発信	(患者向け) アレルギーの病態に関する情報発信	(患者向け) 講演会の開催	(患者向け) 個別相談の機会の提供	医師以外の医療従事者の資格取得支援	その他	特に期待することはない	無回答
全体	765	50.2	37.1	32.4	27.2	19.1	17.8	15.3	8.0	7.2	3.9	1.3	21.3	1.8
施設種別														
診療所	691	50.8	36.5	32.1	26.9	18.1	17.2	15.1	7.2	6.9	3.5	1.2	22.1	1.7
病院	74	44.6	43.2	35.1	29.7	28.4	23.0	17.6	14.9	9.5	8.1	2.7	13.5	2.7
診療領域別														
内科系	391	51.9	40.2	34.8	27.4	21.5	15.3	14.3	5.6	6.6	2.6	0.5	21.7	2.3
小児科系	110	50.9	36.4	30.0	38.2	23.6	23.6	16.4	10.0	7.3	9.1	4.5	11.8	3.6
眼科系	55	41.8	21.8	30.9	7.3	5.5	10.9	16.4	5.5	5.5	0.0	0.0	30.9	0.0
耳鼻咽喉科系	74	47.3	28.4	29.7	28.4	17.6	23.0	18.9	16.2	9.5	1.4	2.7	23.0	0.0
皮膚科系	75	52.0	46.7	36.0	29.3	20.0	26.7	20.0	10.7	9.3	8.0	0.0	13.3	1.3
その他	60	46.7	31.7	21.7	20.0	8.3	11.7	8.3	8.3	6.7	5.0	1.7	35.0	0.0

⑤アレルギー診療の提供体制（診療連携体制等）整備で必要だと考えること

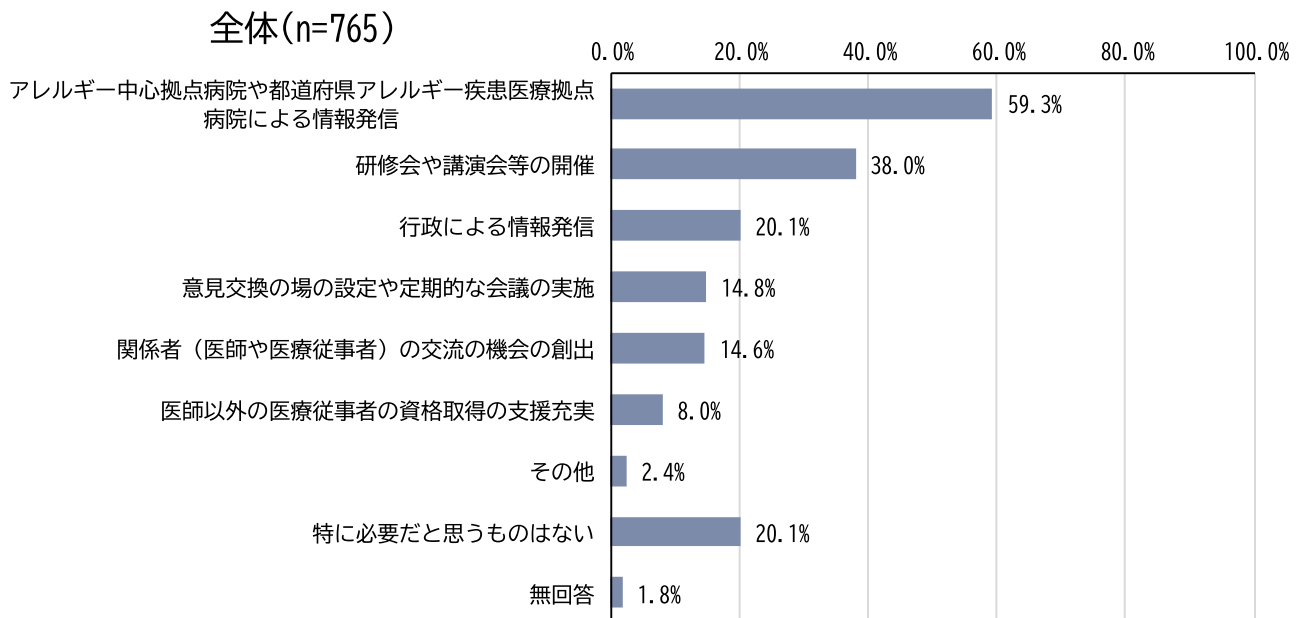
問 24. 地域におけるアレルギー診療の提供体制（診療連携体制等）整備のために必要だと考えることを教えてください。（当てはまるものすべて選択）

アレルギー診療の提供体制（診療連携体制等）整備で必要だと考えることについて、全体では「アレルギー中心拠点病院や都道府県アレルギー疾患医療拠点病院による情報発信」が 59.3%で最も高く、次いで「研修会や講演会等の開催」が 38.0%であった。

施設種別でみると、『病院』は『診療所』よりも「医師以外の医療従事者の資格取得の支援充実」の割合が高くなっている。

診療領域別でみると、『小児科系』は他の診療領域よりも「研修会や講演会等の開催」「関係者（医師や医療従事者）の交流の機会の創出」の割合が高くなっている。

【図 19】アレルギー診療の提供体制（診療連携体制等）整備で必要だと考えること



【表 17】施設種別・診療領域別 アレルギー診療の提供体制（診療連携体制等）整備で必要だと考えること

施設種別	診療領域別	回答数	アレルギー中心拠点病院や都道府県アレルギー疾患医療拠点病院による情報発信	研修会や講演会等の開催	行政による情報発信	意見交換の場の設定や定期的な会議の実施	関係者（医師や医療従事者）の交流の機会の創出	医師以外の医療従事者の資格取得の支援充実	その他	特に必要だと思うものはない	無回答
全体		765	59.3	38.0	20.1	14.8	14.6	8.0	2.4	20.1	1.8
施設種別	診療所	691	59.3	38.6	19.1	14.0	13.7	6.4	2.0	21.3	1.9
	病院	74	59.5	32.4	29.7	21.6	23.0	23.0	5.4	9.5	1.4
診療領域別	内科系	391	61.6	39.4	22.3	15.3	14.3	6.4	1.5	20.7	2.3
	小児科系	110	54.5	55.5	20.0	20.0	24.5	16.4	4.5	8.2	2.7
	眼科系	55	54.5	23.6	12.7	9.1	5.5	0.0	0.0	30.9	1.8
	耳鼻咽喉科系	74	51.4	29.7	20.3	13.5	14.9	5.4	4.1	28.4	0.0
	皮膚科系	75	68.0	37.3	18.7	16.0	10.7	12.0	1.3	13.3	1.3
	その他	60	56.7	21.7	15.0	6.7	11.7	8.3	5.0	26.7	0.0

⑥アレルギー施策について行政に期待すること

問 25. アレルギー施策について、行政に期待することを教えてください。(回答は任意です)
※最大 200 文字程度

アレルギー施策について行政に期待することは、「情報提供・啓発活動の強化」が 17 件で最も多く、次いで「診療報酬・経済的支援の拡充」が 16 件であった。

意見	件数
情報提供・啓発活動の強化	17
診療報酬・経済的支援の拡充	16
相談窓口・患者支援サービスの充実	5
医療連携・紹介体制の整備	4
教育機関・保育施設への支援	4
環境改善・アレルゲン低減施策	4
事務手続きの簡素化・書類負担軽減	3
専門医・人材育成への支援	3
医薬品の安定供給と補助	2
重症・救急対応体制の強化	2
その他	2
特になし	9
(回答数)	61

※自由回答を分類するため、カテゴリー分けを実施。

※ 1 つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合がある。

【代表的な意見の紹介（上位5項目等）】

①情報提供・啓発活動の強化
<ul style="list-style-type: none"> ● アレルギー診療に係る公開されているホームページの作成。 ● 一般の患者や家族の情報源は昨今 SNS など医療監修のないインターネット上書き込みである事が多く、誤った認識の浸透が懸念される。一般向けの情報の核となって欲しい。 ● アレルギー疾患は寛解期に持っていくことで生活力が上がることを広く患者様にご理解いただくと良いと思います。
②診療報酬・経済的支援の拡充
<ul style="list-style-type: none"> ● アレルギーは、子供の頃から早期に治療や対策をすべきです。高校生まで医療費を無償化することが、最重要課題だと思います。 ● 難治性患者の医療費補助。 ● スキンケア指導の加算。食物負荷試験算定基準の緩和。生物学的製剤を使用しているお子さんに対する加算の検討。
③相談窓口・患者支援サービスの充実
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の相談窓口の設置。 ● アレルギーがある子の栄養士さんによる栄養相談などを行政でも行ってもらえると助かります。
④医療連携・紹介体制の整備
<ul style="list-style-type: none"> ● クリニック治療への助言、専門病院との橋渡し。 ● 重症患者は病院、軽症患者は診療所という基準を明確にして、紹介・逆紹介をさらにスムーズに行えるようにしてほしい。
⑤教育機関・保育施設への支援
<ul style="list-style-type: none"> ● アレルギー症状や重症度は、基本的な生活習慣や体調によって左右されることも多く、一定ではないため、周囲から理解されにくい側面がある。小学校や中学校などの教育の中で、アレルギーの正確な知識を身につける機会を増やしてほしい。
上位5項目以外の意見
<ul style="list-style-type: none"> ● 花粉のないスギへの変換など花粉を減らす事業を進めてほしい。 ● 書類の作成を簡便にしてほしい。 ● 専門医の資格に対して、加点をすべき。取得維持に費用がかかるが補填されない。 ● 新規患者に減感作療法を行いたいが、薬剤が入荷しないので実施できておりません。早急な薬剤供給体制の確立をお願いします。 ● 救急車にエピペンを常備する。救急救命士にその使い方を指導する。 ● メーリングリストで情報発信していただいたものは一通り目を通しています。役に立ちそうな事は実行しています。

III 參考資料

Ⅲ. 参考資料

1. 医療機関調査票

アレルギー疾患に係る医療機関調査

基本属性(公表を想定)

Q1. 診療状況の公表

貴施設の基礎情報やアレルギー疾患の診療状況をお伺いします。
回答結果を横浜市のホームページに掲載することに同意いただけますか(公表対象: Q2~Q11)。同意いただけない場合は公表しません。
回答は統計的に処理し、医療機関が特定されない形で結果を公表しますので引き続き回答をお願いします。【必須回答】

- | | |
|---------|----------|
| 1. 同意する | 2. 同意しない |
|---------|----------|

Q2. 基礎情報について、ご回答ください。【必須回答】

- | | |
|--------------|--|
| 1. 医療機関名 | |
| 2. 住所 | |
| 3. 担当者名(非公表) | |
| 4. 連絡先 電話番号 | |
| メールアドレス(非公表) | |

Q3. 施設の種類について、ご回答ください。(一つを選択)【必須回答】

- | | |
|---|--|
| 1. 診療所 | |
| 2. 病院(確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院)(診療科名:) | |
| 3. 病院(基本的に診断から増悪時の治療まで自院で対応可能な病院)(診療科名:) | |

Q4. 主たる診療領域をご回答ください。(一つを選択)【必須回答】

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 内科系 | 4. 耳鼻咽喉科系 |
| 2. 小児科系 | 5. 皮膚科系 |
| 3. 眼科系 | 6. その他() |

Q5. 専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご回答ください。(一つを選択)【必須回答】

※病院の場合は、専門医については所属する診療科の状況についてご回答ください。小児アレルギーエドゥケーター (PAE)とアレルギー疾患療養指導士 (CAI) については院内の状況についてご回答ください。

	いる	いない	わからない
内科専門医	1	2	-
小児科専門医	1	2	-
皮膚科専門医	1	2	-
眼科専門医	1	2	-
耳鼻咽喉科専門医	1	2	-
呼吸器専門医	1	2	-
アレルギー専門医	1	2	-
小児アレルギーエドゥケーター (PAE)	1	2	3
アレルギー疾患療養指導士 (CAI)	1	2	3

アレルギー疾患の診療対象・診断状況(公表を想定)

Q6. 令和7年5月時点において、「診療」を行っている疾患についてご回答ください。

(一つを選択)【必須回答】

	小児と成人を診療する	小児のみ診療する	成人のみ診療する	診療していない
気管支ぜん息	1	2	3	4
アトピー性皮膚炎	1	2	3	4
アレルギー性鼻炎(花粉症を除く)	1	2	3	4
アレルギー性結膜炎(花粉症を除く)	1	2	3	4
花粉症	1	2	3	4
食物アレルギー	1	2	3	4
その他アレルギー()	1	2	3	4

【Q6で診療可能と回答した疾患のみ回答】

Q7. 令和7年5月時点において、「診断」を行っている疾患についてご回答ください。

(一つを選択)【必須回答】

	自院で診断が可能	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	自院では診断しない
気管支ぜん息	1	2	3
アトピー性皮膚炎	1	2	3
アレルギー性鼻炎(花粉症を除く)	1	2	3
アレルギー性結膜炎(花粉症を除く)	1	2	3
花粉症	1	2	3
食物アレルギー	1	2	3
その他アレルギー()	1	2	3

アレルギー疾患の治療・検査の実施状況(公表を想定)

Q 8. 実施可能な検査についてご回答ください。(当てはまるものすべて選択)【必須回答】

1. 呼吸機能検査
2. 呼気一酸化窒素 (NO) 濃度測定
3. 食物経口負荷試験 (入院)
4. 食物経口負荷試験 (外来)
5. プリックテスト
6. パッチテスト
7. その他 ()
8. 検査は実施していない

Q 9. 実施可能な治療についてご回答ください。(当てはまるものすべて選択)【必須回答】

1. 吸入療法指導
2. ピークフローメーターや喘息日記を用いた管理
3. 生物学的製剤 (成人のみ)
4. 舌下免疫療法
5. 皮下免疫療法
6. 経口免疫療法
7. アドレナリン自己注射薬 (エピペン®) の処方
8. その他 ()
9. 治療は実施していない

Q10. 提供可能な生活指導についてご回答ください。(当てはまるものすべて選択)【必須回答】

1. 生活管理指導表(アレルギー疾患用)の交付
2. 吸入薬指導
3. スキンケア指導
4. 外用薬塗布指導
5. 環境整備指導
6. 食物除去指導
7. 栄養指導
8. 代替食の提案
9. アドレナリン自己注射薬(エピペン®)の指導
10. その他 ()
11. 生活指導は実施していない

Q11. アレルギー疾患のオンライン診療を実施していますか。(一つを選択)【必須回答】

- | | | |
|-----------|------------|--------------------|
| 1. 実施している | 2. 実施していない | 3. 実施しているが公表を希望しない |
|-----------|------------|--------------------|

医療機関連携について

ここからの設問は、横浜市のホームページには掲載いたしません。

【Q3で「診療所」「病院（確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院）」の医療機関が回答】

【Q6で診療可能と回答した疾患のみ回答】

Q12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。（一つを選択）

	紹介先がある	決まった紹介先はない
気管支ぜん息	1	2
アトピー性皮膚炎	1	2
アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）	1	2
アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）	1	2
花粉症	1	2
食物アレルギー	1	2
その他アレルギー	1	2

【Q12で一つでも「紹介先がある」を選択した場合、回答】

Q13. 他の医療機関へ患者を紹介する場合、紹介先の種別についてご回答ください。（当てはまるものすべて選択）

1. 神奈川県立こども医療センター（都道府県アレルギー疾患医療拠点病院）
2. 横浜市立みなと赤十字病院（都道府県アレルギー疾患医療拠点病院）
3. 国立成育医療研究センター（アレルギー中心拠点病院）
4. 国立病院機構相模原病院（アレルギー中心拠点病院）
5. その他の病院
6. 診療所

※都道府県アレルギー疾患医療拠点病院

アレルギー疾患医療の中心的な役割を果たす病院として都道府県が指定。重症・難治性患者の診断、治療、管理や、患者・家族等への適切な情報提供を行うほか、医療従事者や関係者の人材育成などに取り組む。

※アレルギー中心拠点病院

重症・難治性のアレルギー疾患に対する高度な診療、専門人材の育成、科学的知見に基づく情報提供、研究推進などを担う日本のアレルギー治療における中核的医療機関。

2. 単純集計結果

Q1. 貴施設の基礎情報やアレルギー疾患の診療状況をお伺いします。回答結果を横浜市ホームページに掲載することに同意いただけますか（公表対象：Q2～Q11）。同意いただけない場合は公表しません。回答は統計的に処理し、医療機関が特定されない形で結果を公表しますので引き続き回答をお願いします。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	同意する	557	72.8	72.8
2	同意しない	208	27.2	27.2
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

Q3. 施設の種類について、ご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	診療所	691	90.3	90.3
2	病院（確定診断や増悪時の診療は自院で診ず他院へ紹介する病院）	22	2.9	2.9
3	病院（基本的に診断から増悪時の治療まで自院で対応可能な病院）	52	6.8	6.8
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

Q4. 主たる診療領域をご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	内科系	391	51.1	51.1
2	小児科系	110	14.4	14.4
3	眼科系	55	7.2	7.2
4	耳鼻咽喉科系	74	9.7	9.7
5	皮膚科系	75	9.8	9.8
6	その他	60	7.8	7.8
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

内科専門医/Q5. 専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	237	31.0	31.0
2	いない	528	69.0	69.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

小児科専門医/Q5. 専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	138	18.0	18.0
2	いない	627	82.0	82.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

皮膚科専門医／Ｑ５．専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご回答
ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	109	14.2	14.2
2	いない	656	85.8	85.8
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

眼科専門医／Ｑ５．専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご回答
ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	76	9.9	9.9
2	いない	689	90.1	90.1
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

耳鼻咽喉科専門医／Ｑ５．専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご
回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	91	11.9	11.9
2	いない	674	88.1	88.1
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

呼吸器専門医／Ｑ５．専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご回答
ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	72	9.4	9.4
2	いない	693	90.6	90.6
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

アレルギー専門医／Ｑ５．専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご
回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	104	13.6	13.6
2	いない	661	86.4	86.4
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

小児アレルギーエデュケーター (PAE) ／Ｑ５．専門医やアレルギーに関するス
タッフの所属状況をご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	14	1.8	1.8
2	いない	689	90.1	90.1
3	わからない	62	8.1	8.1
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

2/12

(徐不) … 「不明」を除く

アレルギー疾患療養指導士（CAI）／Q 5. 専門医やアレルギーに関するスタッフの所属状況をご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いる	11	1.4	1.4
2	いない	709	92.7	92.7
3	わからない	45	5.9	5.9
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

気管支ぜん息／Q 6. 令和7年5月時点において、「診療」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	小児と成人を診療する	170	22.2	22.2
2	小児のみ診療する	75	9.8	9.8
3	成人のみ診療する	282	36.9	36.9
4	診療していない	238	31.1	31.1
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

アトピー性皮膚炎／Q 6. 令和7年5月時点において、「診療」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	小児と成人を診療する	202	26.4	26.4
2	小児のみ診療する	73	9.5	9.5
3	成人のみ診療する	111	14.5	14.5
4	診療していない	379	49.5	49.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）／Q 6. 令和7年5月時点において、「診療」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	小児と成人を診療する	269	35.2	35.2
2	小児のみ診療する	56	7.3	7.3
3	成人のみ診療する	213	27.8	27.8
4	診療していない	227	29.7	29.7
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）／Q 6. 令和7年5月時点において、「診療」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	小児と成人を診療する	217	28.4	28.4
2	小児のみ診療する	59	7.7	7.7
3	成人のみ診療する	151	19.7	19.7
4	診療していない	338	44.2	44.2
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

3/12

(徐不) … 「不明」を除く

花粉症／Q 6. 令和 7 年 5 月時点において、「診療」を行っている疾患について
ご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	小児と成人を診療する	389	50.8	50.8
2	小児のみ診療する	47	6.1	6.1
3	成人のみ診療する	256	33.5	33.5
4	診療していない	73	9.5	9.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

食物アレルギー／Q 6. 令和 7 年 5 月時点において、「診療」を行っている疾患
についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	小児と成人を診療する	167	21.8	21.8
2	小児のみ診療する	78	10.2	10.2
3	成人のみ診療する	127	16.6	16.6
4	診療していない	393	51.4	51.4
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

その他アレルギー／Q 6. 令和 7 年 5 月時点において、「診療」を行っている疾
患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	小児と成人を診療する	139	18.2	18.2
2	小児のみ診療する	44	5.8	5.8
3	成人のみ診療する	115	15.0	15.0
4	診療していない	467	61.0	61.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

気管支ぜん息／Q 7. 令和 7 年 5 月時点において、「診断」を行っている疾患に
ついてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自院で診断が可能	200	38.0	38.0
2	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	287	54.5	54.5
3	自院では診断しない	40	7.6	7.6
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	527	100	527

アトピー性皮膚炎／Q 7. 令和 7 年 5 月時点において、「診断」を行っている疾
患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自院で診断が可能	189	49.0	49.0
2	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	172	44.6	44.6
3	自院では診断しない	25	6.5	6.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	386	100	386

4/12

(除不) … 「不明」を除く

アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）／Ｑ 7. 令和 7 年 5 月時点において、「診断」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自院で診断が可能	273	50.7	50.7
2	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	235	43.7	43.7
3	自院では診断しない	30	5.6	5.6
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	538	100	538

アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）／Ｑ 7. 令和 7 年 5 月時点において、「診断」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自院で診断が可能	186	43.6	43.6
2	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	212	49.6	49.6
3	自院では診断しない	29	6.8	6.8
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	427	100	427

花粉症／Ｑ 7. 令和 7 年 5 月時点において、「診断」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自院で診断が可能	434	62.7	62.7
2	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	234	33.8	33.8
3	自院では診断しない	24	3.5	3.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	692	100	692

食物アレルギー／Ｑ 7. 令和 7 年 5 月時点において、「診断」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自院で診断が可能	136	36.6	36.6
2	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	223	59.9	59.9
3	自院では診断しない	13	3.5	3.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	372	100	372

その他アレルギー／Ｑ 7. 令和 7 年 5 月時点において、「診断」を行っている疾患についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自院で診断が可能	101	33.9	33.9
2	自院で一定程度診断し、必要時に専門医療機関へ紹介	170	57.0	57.0
3	自院では診断しない	27	9.1	9.1
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	298	100	298

5/12

(徐不) … 「不明」を除く

Q 8. 実施可能な検査についてご回答ください。

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	呼吸機能検査	204	26.7	26.7
2	呼気一酸化窒素 (NO) 濃度測定	101	13.2	13.2
3	食物経口負荷試験 (入院)	13	1.7	1.7
4	食物経口負荷試験 (外来)	39	5.1	5.1
5	ブリックテスト	64	8.4	8.4
6	パッチテスト	71	9.3	9.3
7	その他	193	25.2	25.2
8	検査は実施していない	325	42.5	42.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

Q 9. 実施可能な治療についてご回答ください。

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	吸入療法指導	291	38.0	38.0
2	ピークフローメーターやぜん息日記を用いた管理	113	14.8	14.8
3	生物学的製剤 (成人のみ)	116	15.2	15.2
4	舌下免疫療法	231	30.2	30.2
5	皮下免疫療法	17	2.2	2.2
6	経口免疫療法	31	4.1	4.1
7	アドレナリン自己注射薬 (製品名: エピペン) の処方	281	36.7	36.7
8	その他	93	12.2	12.2
9	治療は実施していない	217	28.4	28.4
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

Q 10. 提供可能な生活指導についてご回答ください。

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	生活管理指導表 (アレルギー疾患用) の交付	188	24.6	24.6
2	吸入薬指導	325	42.5	42.5
3	スキンケア指導	250	32.7	32.7
4	外用薬塗布指導	279	36.5	36.5
5	環境整備指導	182	23.8	23.8
6	食物除去指導	151	19.7	19.7
7	栄養指導	135	17.6	17.6
8	代替食の提案	64	8.4	8.4
9	アドレナリン自己注射薬 (製品名: エピペン) の指導	254	33.2	33.2
10	その他	9	1.2	1.2
11	生活指導は実施していない	273	35.7	35.7
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

Q 11. アレルギー疾患のオンライン診療を実施していますか。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	実施している	28	3.7	3.7
2	実施していない	710	92.8	92.8
3	実施しているが公表を希望しない	27	3.5	3.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	765	100	765

6/12

(徐不) … 「不明」を除く

気管支ぜん息／Q12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先がある	247	50.2	50.4
2	決まった紹介先はない	243	49.4	49.6
	無回答	2	0.4	
	N (%ベース)	492	100	490

アトピー性皮膚炎／Q12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先がある	188	53.4	53.6
2	決まった紹介先はない	163	46.3	46.4
	無回答	1	0.3	
	N (%ベース)	352	100	351

アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）／Q12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先がある	175	34.7	34.9
2	決まった紹介先はない	327	64.9	65.1
	無回答	2	0.4	
	N (%ベース)	504	100	502

アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）／Q12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先がある	138	34.7	35.0
2	決まった紹介先はない	256	64.3	65.0
	無回答	4	1.0	
	N (%ベース)	398	100	394

花粉症／Q12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先がある	177	27.2	27.5
2	決まった紹介先はない	467	71.8	72.5
	無回答	6	0.9	
	N (%ベース)	650	100	644

食物アレルギー／Q12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先がある	174	51.2	51.8
2	決まった紹介先はない	162	47.6	48.2
	無回答	4	1.2	
	N (%ベース)	340	100	336

その他アレルギー／Q12. 他の医療機関への患者紹介の状況についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先がある	103	38.7	40.9
2	決まった紹介先はない	149	56.0	59.1
	無回答	14	5.3	
	N (%ベース)	266	100	252

7/12

(除不) … 「不明」を除く

Q13. 他の医療機関へ患者を紹介する場合、紹介先の種別についてご回答ください。
 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	神奈川県立子ども医療センター (都道府県アレルギー疾患医療拠点病院)	136	41.6	42.1
2	横浜市立みなと赤十字病院 (都道府県アレルギー疾患医療拠点病院)	123	37.6	38.1
3	国立成育医療研究センター (アレルギー中心拠点病院)	39	11.9	12.1
4	国立病院機構相模原病院 (アレルギー中心拠点病院)	59	18.0	18.3
5	その他の病院	220	67.3	68.1
6	診療所	44	13.5	13.6
	無回答	4	1.2	
	N (%ベ-ス)	327	100	323

Q15. 紹介先の医療機関に求めることについて、ご回答ください。
 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介の基準となる病状等の情報提供	425	59.6	60.6
2	自院での継続治療への助言	350	49.1	49.9
3	人材育成 (研修会の開催)	64	9.0	9.1
4	人材育成 (症例検討会の開催)	48	6.7	6.8
5	人材育成 (実地研修の受け入れ)	20	2.8	2.9
6	患者向けの情報発信 (ホームページの充実)	100	14.0	14.3
7	患者向けの情報発信 (患者向け講演会の実施)	59	8.3	8.4
8	患者向け相談窓口の設置	98	13.7	14.0
9	その他	13	1.8	1.9
10	特に求めることはない	162	22.7	23.1
	無回答	12	1.7	
	N (%ベ-ス)	713	100	701

気管支ぜん息/Q16. 逆紹介の対応状況について、ご回答ください。
 (単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能	117	23.8	24.1
2	状態が安定していれば逆紹介を受け入れ可能	343	69.7	70.6
3	逆紹介を受け入れることは困難	26	5.3	5.3
	無回答	6	1.2	
	N (%ベ-ス)	492	100	486

アトピー性皮膚炎/Q16. 逆紹介の対応状況について、ご回答ください。
 (単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能	102	29.0	29.4
2	状態が安定していれば逆紹介を受け入れ可能	227	64.5	65.4
3	逆紹介を受け入れることは困難	18	5.1	5.2
	無回答	5	1.4	
	N (%ベ-ス)	352	100	347

アレルギー性鼻炎 (花粉症を除く)/Q16. 逆紹介の対応状況について、ご回答
 ください。
 (単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能	183	36.3	36.7
2	状態が安定していれば逆紹介を受け入れ可能	292	57.9	58.6
3	逆紹介を受け入れることは困難	23	4.6	4.6
	無回答	6	1.2	
	N (%ベ-ス)	504	100	498

8/12

(徐不) … 「不明」を除く

アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）／Q16. 逆紹介の対応状況について、ご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能	134	33.7	34.2
2	状態が安定していれば逆紹介を受け入れ可能	236	59.3	60.2
3	逆紹介を受け入れることは困難	22	5.5	5.6
	無回答	6	1.5	
	N (%ベース)	398	100	392

花粉症／Q16. 逆紹介の対応状況について、ご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能	284	43.7	44.0
2	状態が安定していれば逆紹介を受け入れ可能	327	50.3	50.7
3	逆紹介を受け入れることは困難	34	5.2	5.3
	無回答	5	0.8	
	N (%ベース)	650	100	645

食物アレルギー／Q16. 逆紹介の対応状況について、ご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能	80	23.5	24.1
2	状態が安定していれば逆紹介を受け入れ可能	242	71.2	72.9
3	逆紹介を受け入れることは困難	10	2.9	3.0
	無回答	8	2.4	
	N (%ベース)	340	100	332

その他アレルギー／Q16. 逆紹介の対応状況について、ご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほぼ全例で逆紹介を受け入れ可能	62	23.3	25.3
2	状態が安定していれば逆紹介を受け入れ可能	174	65.4	71.0
3	逆紹介を受け入れることは困難	9	3.4	3.7
	無回答	21	7.9	
	N (%ベース)	266	100	245

気管支ぜん息／Q18. 状態が安定した患者の紹介についてご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	逆紹介を基本としている	26	74.3	74.3
2	紹介元以外の紹介先がある	1	2.9	2.9
3	決まった紹介先はない	8	22.9	22.9
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	35	100	35

アトピー性皮膚炎／Q18. 状態が安定した患者の紹介についてご回答ください。（単一回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	逆紹介を基本としている	21	61.8	61.8
2	紹介元以外の紹介先がある	3	8.8	8.8
3	決まった紹介先はない	10	29.4	29.4
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	34	100	34

9/12

(徐不) … 「不明」を除く

アレルギー性鼻炎（花粉症を除く）／Q18. 状態が安定した患者の紹介について
 ご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	逆紹介を基本としている	22	64.7	64.7
2	紹介元以外の紹介先がある	1	2.9	2.9
3	決まった紹介先はない	11	32.4	32.4
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	34	100	34

アレルギー性結膜炎（花粉症を除く）／Q18. 状態が安定した患者の紹介について
 ご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	逆紹介を基本としている	19	65.5	65.5
2	紹介元以外の紹介先がある	1	3.4	3.4
3	決まった紹介先はない	9	31.0	31.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	29	100	29

花粉症／Q18. 状態が安定した患者の紹介についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	逆紹介を基本としている	27	64.3	64.3
2	紹介元以外の紹介先がある	1	2.4	2.4
3	決まった紹介先はない	14	33.3	33.3
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	42	100	42

食物アレルギー／Q18. 状態が安定した患者の紹介についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	逆紹介を基本としている	18	56.3	56.3
2	紹介元以外の紹介先がある	1	3.1	3.1
3	決まった紹介先はない	13	40.6	40.6
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	32	100	32

その他アレルギー／Q18. 状態が安定した患者の紹介についてご回答ください。

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	逆紹介を基本としている	16	50.0	50.0
2	紹介元以外の紹介先がある	2	6.3	6.3
3	決まった紹介先はない	14	43.8	43.8
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	32	100	32

10/12

(徐不) …「不明」を除く

Q19. 状態が安定した患者の紹介において、課題と感ずることを教えてください。
 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	逆紹介が困難 (紹介元で受入れができない)	15	28.8	28.8
2	紹介先医療機関における、診療可能範囲の情報が少ない	18	34.6	34.6
3	紹介先医療機関における、専門医等の在籍状況がわからない	13	25.0	25.0
4	日頃から連携を取っている医療機関がない	3	5.8	5.8
5	紹介すべき医療機関がわからない	5	9.6	9.6
6	患者の同意が得られない	23	44.2	44.2
7	その他	2	3.8	3.8
8	特に課題はない	13	25.0	25.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	52	100	52

Q20. アレルギー診療において、課題と感ずることを教えてください。
 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない	275	35.9	36.7
2	重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない	268	35.0	35.7
3	患者の生活指導が困難	203	26.5	27.1
4	小児科から成人診療科へ移行した患者の対応が困難	119	15.6	15.9
5	医療スタッフの資質向上が困難	61	8.0	8.1
6	アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある	88	11.5	11.7
7	その他	26	3.4	3.5
8	特に課題はない	236	30.8	31.5
	無回答	15	2.0	
	N (%ベース)	765	100	750

Q21. 先ほど教えていただいたアレルギー診療における課題のうち、最も課題だ
 と思うものを一つお選びください。
 (単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	紹介先・逆紹介先医療機関の情報が少ない	156	30.4	30.9
2	重症患者を診療できる医療機関の情報が少ない	135	26.3	26.7
3	患者の生活指導が困難	90	17.5	17.8
4	小児科から成人診療科へ移行した患者の対応が困難	40	7.8	7.9
5	医療スタッフの資質向上が困難	14	2.7	2.8
6	アレルギー疾患の診療にあたり経営上の課題がある	53	10.3	10.5
7	前問で「その他」に回答した内容	17	3.3	3.4
	無回答	9	1.8	
	N (%ベース)	514	100	505

11/12

(除不) … 「不明」を除く

Q23. 神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院（神奈川県立こども医療センター、横浜市立みなと赤十字病院）に期待することについてご回答ください。

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	診療内容に関する相談窓口	284	37.1	37.8
2	紹介の基準となる病状等の情報提供	384	50.2	51.1
3	紹介・逆紹介先の情報提供	248	32.4	33.0
4	診療連携のためのネットワークの構築（意見交換の場など）	146	19.1	19.4
5	（医療従事者向け）勉強会・講演会の開催	208	27.2	27.7
6	医師以外の医療従事者の資格取得支援	30	3.9	4.0
7	（患者向け）アレルギーの病態に関する情報発信	117	15.3	15.6
8	（患者向け）アレルギーにかかる生活指導に関する情報発信	136	17.8	18.1
9	（患者向け）講演会の開催	61	8.0	8.1
10	（患者向け）個別相談の機会の提供	55	7.2	7.3
11	その他	10	1.3	1.3
12	特に期待することはない	163	21.3	21.7
	無回答	14	1.8	
	N（%ベース）	765	100	751

Q24. 地域におけるアレルギー診療の提供体制（診療連携体制等）整備のために必要だと考えることを教えてください。

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	アレルギー中心拠点病院や都道府県アレルギー疾患医療拠点病院による情報発信	454	59.3	60.5
2	研修会や講演会等の開催	291	38.0	38.7
3	行政による情報発信	154	20.1	20.5
4	意見交換の場の設定や定期的な会議の実施	113	14.8	15.0
5	関係者（医師や医療従事者）の交流の機会の創出	112	14.6	14.9
6	医師以外の医療従事者の資格取得の支援充実	61	8.0	8.1
7	その他	18	2.4	2.4
8	特に必要だと思うものはない	154	20.1	20.5
	無回答	14	1.8	
	N（%ベース）	765	100	751

12/12

(除不) … 「不明」を除く